

愛媛大学教育学部

第 110 号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番

愛媛大学教育学部総務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



教育の再生に向けて



愛媛大学
教育学部長
寿 卓三

卒業生の皆さん、お元気ですか。この同窓会報やマスコミなどで既にご存知かと思いますが、愛媛大学は、ブランドマーク、マスコミトキヤクターができただけでなく、記念講堂の南加記念ホールとしての改修、校友会館の新設、サークルボックスの愛大ショップとしての再生などによって、ずいぶんときれいになりました。

このような外観の変化だけでなく、学部のある様も、時代の要請に因應するべくずいぶん変わりました。課程・コースの構成だけでなく、講義のあり方、教員と学生の関係、学部と附属との連携、そして、学部と愛媛の学校現場との協力関係なども大きく変わりつつあります。ところで、このような変

容は一体なぜ起きているのでしょうか。また、どこを目指しているのでしょうか。その点について私の考えを述べさせていただきます。

私たちの社会では今、典型労働者と非典型労働者の二極分解が進行しつつあります。非典型労働者は、単純に夢や希望から「疎外」されているのではなく、その前提となる夢や希望を語ること自体ができなくなったという指摘があります。非典型労働者は、自らの仕事までも普遍的な価値・使命Xとつながっているという感覚を持ちえないし、持つことを許されない状況下に置かれているということです。そしてこのことは、給与の高さや管理職への昇進ということをその労働意欲の源泉とせざるを得ない多くの正社員にも大なり小なり妥当することになります。

戦後の奇跡的な経済復興を可能にした原動力の一つとして、日本社会における階層移動の流動性が挙げられます。ホワイトカラーとブルーカラーとの境界が横断的となり、ホワイトカラー雇用上層の再生産過程が潜在化し、また、ブルーカラー雇用から自営への上昇ルートが開かれることで、「努力

すればナントカなる」社会が出現したことが、経済発展の原因でもあり結果でもあったというのです。大多数の人々にとって、八〇年代前半までの戦後の階層社会は、西欧的な意味での「中流階級」、戦後日本の感覚における「上」になれる可能性を信じることでできたわけですが。しかし、「団塊の世代」以降、ホワイトカラー雇用上層への上昇という主ルートが閉鎖されただけでなく、ブルーカラー雇用上層から自営へという副ルートも消えてしまい、日本の選抜システムは飽和状態を迎えることになりました。この状況は、生まれなど各人の力に由来しない成果を自分の業績として既得権化することによって、エリート層では責任感の空洞化を招き、他方、ホワイトカラー雇用上層以外の人々においては、「努力してもしかたがない」という閉塞感を生み出すことになりました。責任感を持ってないエリートと将来に希望を持ってない現場の組み合わせ、二極分化の過程で空虚感にとりつかれた正社員と非典型労働者、労働の場がこのような状況下に置かれているとすれば、種々のとんでもない偽装や事件・事故が起こるのはむしろ（当然）だと言いきるのかもしれない。

発展・成長・豊かさを追求するモダン文明は、社会の機能の「合理」化を強力に押し進め、個人の能動性を労働市場における競争能力の維持・強化に振り向けさせることになりました。他方、情報資本主義の進展は、メディア・情報

そのものの消費に人々の関心を向けさせることになり、メディアの伝えるメッセージの意味・価値を低下させます。その結果、私たちの社会的想像力は衰退していきま

す。

学歴・昇進という選抜システムが飽和状態に達した現代において、欲望を相互的、「人・間的」に制御する可能性を切り拓き、社会的連帯の理念を回復することが必要です。教育学部における様々な変容が、新たな社会的連帯を構築する足がかりとなることを願っています。学歴があくまで達成的地位指向の向上手段として位置づけられている日本の現在の教育では、人々の関心は一方の勝利が他方の敗北を意味する「所有」を巡る競争へと向かうことになりました。私たちは、教育という営みを、文化や教養を高め、共生の豊かな地平を切り開く「存在」関係の構築へと変容させる営みを始めたいばかりです。このような作業は、普遍的な価値への通路を切り開き、世界そのものを承認し肯定するまなざしを再生させることになるのではないのでしょうか。そのとき私たちは、たとえ理想や夢が破れて本意な状況に陥ったとしても、人生を放棄するのではなく、その受け容れがたい状況を受け容れ、存在論的な不安に耐えて自分の人生と前向きに向き合っていくのではないのでしょうか。私たち教育学部構成員は、卒業生の皆さんと共に、この難題に正面から取り組んでいきたいと考えています。

目次

表紙	愛大図書館所蔵 三輪田米山
書	菊川 國夫
題字	「教育の再生に向けて」……(1)
	愛大教育学部長 寿 卓三
心	響……(2)
	「この地「球」に魅せられて」
	同窓会理事 村上 嘉一
学部の今……(3)	
	「研究室訪問
	マツコ(牛山真貴子)先生今日は」
	「今、学部はこんな実習しています」
	魅力的な話し方講座(3)……(7)
	「コミュニケーション能力の育成」
	南海放送アナウンサー 合田みゆき
教育学部「学生サークル活動」	紹介……(11)
職場だより……(13)	
	「言葉はビタミン愛」
	西条・丹原小教諭 平井 明花
	「経験を生かす」
	越智郡・生名小教諭 井原 賢一
	「限られた時間を精一杯」
	八幡浜・日土東小教諭 上甲 康代
	「ボーダーレス時代の世界に
	生きる子どもたち」
	愛大附属小教諭 白石 貴士
	「過去に感謝 今に挑戦 未来を創造」
	大洲・河辺中教諭 矢野 香織
学部最近のニュース……(18)	
	「わくわくチャレンジサタデー」
	の活動に感謝状
文芸……(19)	
	「魅力的な大人のマナー講座」
	川柳 東澤孝(紳介)
	絵手紙「楽しく描く」 山上 亘子

心響

この地「球」に
魅せられて

同窓会理事

村上 嘉一

(昭三三卒)

全世界に八百五十万人を超える読者がいるという月刊誌「ナショナル・ジオグラフィック」の出版元は「世界大地図」(アトラス)も出している。これには、全世界の詳しい地図に加え、地図作成法・地球・太陽系・宇宙に関する分かり易い情報も盛り込まれており、同月刊誌と共に私の地球楽(がく)習に格好の資料となっている。

ところで、私が教えたクラスで「地球について何か知っていることは？」との問いに返ってくる多数の答は「地球は丸い」であった。そこでメルカトル図法世界白地図を配り、松山からロンドンへの最短距離を書き込んでみると、両地点間を直線で結ぶ人が最も多かった。大きくカーブした大圏ルートを書き込んでみる。地球は「丸い」は知識の記憶で止まり、平面白地図と結びつけて理解できていないことを示している。白地図と地球儀を対比して使えば容易に理解できることなのだ。

さて、日本人は地「球」をいつ頃知ったのか。江戸時代になっても、この、一見して、平らな地表が「丸い」地球

の一部であることは、日本人の認識ではなかったようである。江戸の三代将軍・徳川家光の侍講・林羅山がイエズス会の修道士ハビアンと地「球」論争している。その中で、当時、大儒学者との評の高かった林羅山は、地表が丸い地球の一部であることを断固として認めていない。(岩波書店、『日本思想大系』、第二五巻、四一四頁)。

人工衛星で地球を眺めることができる。昨今、我々一般人でも、インターネットなどで、大宇宙に浮かぶ丸い小さな地球の映像を、いつでも見ることができ

しかし、その現在でも、この大地は地球・球体の一部である事実を認めない人々もいる。アメリカには、フラット・アース・ソサエティ(地球平面協会)という組織があって、数千人の会員がいるとのことである。(ウイキペディア)のウェブページ)

私は、なぜ、この大地が丸い地球の一部との認識にこだわるのか。それは、「大地」が「平らである」ととらえると、大地(地球)は限りなく広がり、そこには資源などが無限にあると誤解する。他方で人々の住む地表は、宇宙の一点に浮かぶ、ほんの小さな球体(地球)の一部だと認めれば、我々の生命を支える大気・水・食糧・その他の資源も、その小さな球体にあり、当然ことながら、有限であると容易に認識できるからである。

現在、人類生存のための解決を迫られている地球規模の環境・食糧・資源などの諸課題の根源は、地球は無限、または無限に近いものという認識が人々の考えの根底に根強いからであろう。我々に「球」としての地球認識が不可欠と考えるゆえである。

しかし、地球は私たちの日常感覚には、あまりにも巨大で容易にイメージできない。私は縮尺度の異なる数種の

市販地球儀と大きくでき丈夫で多用できるゴム風船(六千円程度で購入可)にプロロー(大工道具)で空気を入れて地球モデルとしている。地球の半径は、ほぼ六千四百kmであるから、この長さを一千万分の一に縮尺すれば半径六四cmとなる。この値を半径とする地球なら、このゴム風船で実現でき、地球をイメージできる。

この縮小地球(半径六四cm)を用いて考えると分かり易い。まず、そこにある水の量を求める。地球の表面積の約七二%は海洋である。この縮小地球の表面積は球の表面積公式により、約五万一千cm²。その七二%が海洋で、その面積は約三万七千平方cm。海洋の平均的な深さは、ほぼ、四千とされているから、この海洋の面積に平均の深さ四千の積(一〇・四mm)をかけると海水の総体積が求められ、ほぼ一・五リットルになる。店で買う飲料水のペットボトル一本にも満たない。地球上にある水の約九七%は海水で、淡水は残り約三%である。淡水のほとんどは南極・北極・高山などの氷・氷河として存在する。これらを除くと、私たちが利用可能な淡水の量は驚くほど少量で小匙一杯程度となる。

食糧はどうか。アメリカにあるワイルド・ウォッチ研究所のレスター・ブラウン博士によれば、全世界で生産される食糧を総熱量に換算すると一日当たり十七兆キロカロリーになるという。国連食糧農業機関(FAO)は



一日一人当たりの熱量消費量を「世界国別熱量供給量」として公表している。日本人は一日一人当たり二七八二キロカロリーである。アメリカのそれは三三五四、中国三〇四四、韓国三〇七三、フィリピン二三五七……である。

この一七兆キロカロリーを一日一人当たりの消費熱量で割り算すれば、その熱量消費で養える総人口を計算できる。一七兆キロカロリーをアメリカ人一人一日当たりの消費熱量三七五四キロカロリーで割り算すると約四五億人となる。日本人の消費する熱量なら約六一億人、中国五六億人、韓国五五億人、フィリピン七二億人……である。

現在の地球の推定総人口は約六八億人である。世界の全ての人がアメリカ人と同様の食生活をするなら、二三億人は食糧がないことになる。フィリピン流の食生活なら、まだ、四億人ほどのゆとりがある。地球の食糧生産は増加する世界の総人口をいつまで支えるのか。日本の食糧自給率は既に四〇%(農水省、二〇〇三年)で世界主要国中最低である。

人類は、いま地球規模で解決を迫られている難しい課題に直面している。それらは、地球の水・食糧・大気・人口・資源・エネルギー・環境……であり、どれも、わたしたちの生存そのものに深く関わっている。そのような時代に、人類が生き残るには、ものごとを地球的な視野で考え行動できるグローバルリテラシーとでもいえる国民的基礎能力・教養が必要とされるであろう。これこそ、人類の未来を展望した国家・社会・学校教育が直面する大きな課題であると私は考えている。

読者の皆さんはどうお考えでしょうか。

(筆者のホームページ、
<http://www.yomuranet>)

俳句「俳句研究会に参加して」

四回生 守谷 和之

短歌「崖の百合」

平井 直子

俳画「カタクリ」と「寒アヤメ」

山口 恭子

ホームカミングデイのお知らせ

「把翠」を繙く……

林 傳次先生 遺稿集より

叙勲・受賞……

今、教育に思うこと……

「明治・大正の頃の教育事情」

上甲 修

「浅海蘇山と三輪田米山」

小野植元幸

同期会……

「愛師二十二年卒第三十七回関東同期会」

武田 敏文

表紙書

「愛媛大学と三輪田米山」……

菊川 國夫

学内トピックス……

「愛媛大学ミュージアム」を

見学してみませんか

「教育学部留学生歓迎会を開催」

寄贈図書……

平成二十二年愛媛大学教育学部

支部長会議報告……

平成二十二年同窓会役員一覧表

敬 弔……

原稿募集……

「愛媛大学記念講堂(南加記念ホール)」が改装されました

新設校友会館の利用を……

放送大学期入学生募集……

同窓会への寄付者

・会報送料送金者名……

教育学部同窓会ホームページ

開設のお知らせ……

愛大文化講演会(仮称)……

(25)(16)

(32)

(24)(33)(33)

(32)(32)(31)(29)

(28)

(27)

(26)

(25)

(23)(22)

(22)(21)

学部 の今

研究室訪問

(平山眞貴子)
マツコ先生今日は

五月晴れ、まさしく爽やかな風が研究室を薫が如く吹き抜ける朝、まっこ先生の研究室を訪ねました。先生は、県内、県外の多面から講演、実技指導等の要請が多く、東奔西走のお忙しい毎日の中、時間を割いて下さりお話をさせて頂くことが出来ました。

まっこ先生のプロフィール

まっこ先生は松山市出身、県立松山東高校から広島大学教育学部へ、そしてお茶の水女子大学大学院修士課程修了、一九八六年から愛媛大学の学生達を巻き込んで「愛媛発のダンス」を作りダンス公演、一九八八年〜一九九二年東京公演(四回)一九九六年アメリカニューヨーク公演(二回)他神戸公演二回、松山公演三十五回。また、指導する愛媛大学ダンスAZが全日本高校・大学ダンスフェスティバルコンクール部門において、現在まで、最高位の文部科学大臣賞など、各賞を受賞、昨

年度二十二回大会では「二〇〇九ニッポンサバイバル」が特別賞(独創的な発想に対して贈られる賞)受賞、二〇〇一年から「ダンスの力で障がいを超えるエイプルアート・ダンスプログラム」「ダンス講習会」(十八都道府県、百二十五回開催)等の講師として、全国展開中です。

「愛媛大学 DANCE AZ」命名秘話

一九八六年以来「愛媛大学DANCE部」として活動していましたが、二十一世紀に入るのを期に、もっと活動の舞台を広げようとの部員の意向もあり、部の名称を変えようと部員全員を対象に新しい部の名称を募集しました。

その中に「AZ」の名が入っていたのがあり、なぜ「AZ」なのかの説明に、「私たちはただ単にダンス、それも『ストリートダンス』や『コンテンポラリーダンス』だけの狭い範疇のダンスをしたい

との思いで集まっているのではない。ダンスのAとZ、つまり、言葉はアルファベットのAとZまでの文字の組み合わせで構成していつているように、今を生きる総ての生活経験のAとZを構成して、自分の人生の中にダンスする時間を取り入れたい。また、自分の大学生活の中ではダンスのジャンルだけでなく、活動の中における人との繋がり、人に教わること、



習うこと等を通して身に付けるAとZの構成、その思いを『ダンスAZ』としたいのです。」ということだったので、全員一致の命名になりました。

「愛媛大学 DANCE AZ」活動状況

四月の入学式でのアトラクション出場から本格的な活動が始まります。これは、自分たちが大学に貢献出来ることを位置づけていま

す。また、昨年度より、チアリーディング部とコラボして、十五分間の演技の中でトーク等も挟みながらチアリーディングと男性AZとのコラボは、大学に自分たちが貢献出来ること、自分たちのイベントではなく、チアさんも頑張っているし、一緒に練習場で頑張っていることから、新入生もファイトが湧いてきて意欲的に活動してきています。

練習は週四日、平日は十八時〜二十一時の三時間、土日は七時間の練習をしています。夜間練習が多いため、ご迷惑を掛ける大学の守衛さんに部員全員が礼儀正しく接していて、部員の人間性の面からいつの間にか守衛さん達が、私たちが何時も温かく見守り声を掛けて下さり、私たちの大きな理解者であり強いサポーターになってきてくれています。また、一回生が毎週火曜日体育館のダンス場までの全階段を掃除していますが、大学に掃除の実習にきている特別支援学校の生徒達と掃除を通して人間関係づくりが深まり、掃除している生徒が成長していく過程を体験的に理解していき、「働くことは人間を成長させるんですね。」と私に話をしてくれることがありました。これらの過程を通して全部員が指導者としての素地が芽生えてきている姿を強く感じます。これがダンスAZが目指している姿と強く感じています。

大学での諸活動を通し、特にコミュニケーション能力が芽生え、深まっていることを見ていて、いい大学生活をしているなあと思う感じがしています。

練習は、ただ単に技術を磨くことが練習ではないと思います。練習の前後で掃除をすることによって「ありがとう」とか「手伝いましょうか」と言われる中で、自分たちの掃除時間帯以外でも、多くの人が掃除に関わっているのだなと感得することも、私には一つの練習だと思っています。

私たちは七月の四国インターカレッジの発表会に出ます。一年を前半、後半に分け、夏までを前半としますと、前半の大きな山場は「全日本高校・大学ダンスフェスティバルコンクール」に出場することです。出場して日本一感動してもらえる作品を創れる大学生になろうと挑戦し続けています。

お陰で、これまでも最高賞を受賞することができました。しかし、学生達にとっては十二月恒例の定期講演会として、学生もやりがいをもって非常に熱心に取り組んでくれています。その定期公演をよりよくするためには、そこで自分のもっている力を十二分に発揮していくためには、アウェイに出て戦ってこそ、本当の自分やチームの真の姿が客観的に体得できて、今、そしてこれからしなければならぬ努力目標が共通理解とし

て芽生えてきます。それで、全国のダンス部が集結するダンスコンクールにチャレンジし始めたわけですね。

今のチームAZについて

チームAZの構成メンバーは、他県から来た学生も多くいますが、主に県内の学生で構成されています。愛媛県のものびりした穏やかな風土から来るのか、チームは以前から「引つ込み思案で」積極性に欠ける」傾向があります。できるだけ波風立てずに、何か周りの雰囲気に合わせていけばいい」という傾向があります。例えば、他県から来る学生も何か真面目でおとなしく、きちんと善悪の判断も出来て、とても気だてのいい子ばかりですが、同調してしまふのか何かエネルギーがなくて無風状態に安閑としている状態です。

この無風地帯に風を巻き起こすのに一番いいのは、「アウェイへ挑戦に出て行くこと」だと考え実行しています。それは、見知らぬ地に向いて行って、自分を表現したとき、その表現が見ず知らずの人々の心にどう伝わっていくのか。また、その反響から、自分の力がどれほどのものなのか等を知ることができてきているからです。

しかし、ただ出場すればいいと言うのではなく、自分たちが結果を表すまでどのような努力をして

きたか、どういう結果が返ってきたのか。その結果が良い結果であつても悪い結果であつても、それをしっかりと受け止める度量が必要なのです。人生でも山あり谷あり、勝ったり負けたり総てうまくいかないことが多いものです。

その貴重な経験を体感出来るこの四年間ではないでしょうか。それを体験、経験した学生は社会に出てきつと逞しく幸せな人生をおくってくれると信じてAZに打ち込んでいます。彼等にとつて公演は、一番見てもらいたい人、大切な人、感謝している人のためにするのです。この公演を素晴らしいものにするためにコンクールに出演することで、一度自分がどれくらい戦える力があるのか、勿論戦う相手は自分自身ですが、それを自覚することが大切です。

作品は三十人という人数構成で創り上げていくので、チームとして一人一人が何を準備しよう表現していかなければならないかをしっかりと意識し日々自覚した生活を送っていかねばならないのです。それには勿論、大学の職員の方、地域で関わって下さっている方の後押しがあつて今があることを絶対に忘れないことにしています。

公演が終わり、会場を出られる方々をお見送りするとき、帰られる方々から「元気をもらつてありがとう。」と言つて下さる言葉が

私達には最高の評価でして、その言葉で、私達はいつも明日への勇気が湧いてきています。

深まる中高との連携

今は県外もありますが、主に県下の中高との連携が深まってきています。よく文化祭の発表会に呼ばれたり、ダンス関係の部指導に呼ばれたりしています。高校から文化祭に呼ばれた際、大学生の高いパフォーマンスに生徒は高い感銘を受けるようで、是非今後も指導を含め文化祭での発表会出演もお願いしますとの依頼があります。

大学生が外向いて、中高のダンス指導に当たっていますが、外向いた学生が共通して報告してくれる言葉があります。それは、それぞれの部の顧問の先生についてです。専門でない顧問の先生が、指導に來た学生をわざわざ出迎えてくださることから始まり、指導時、そして指導後のお見送りまでの、マネージメントの姿に、学生自身が「顧問の先生の一挙手一投足が、私達学生が演技者として、指導者としてどうあるべきかの指針を示して頂いているようで、勉強してきました。これからもこの学校に是非外向いていきたい。」と言います。また、高校から大学へ外向いてこれら、真剣勝負で相互の練習公開もしていただき、中高生と大学生との絆がより強くなつてきています。

指導から見えてきた中高生像

最近、中高生との連携が深まるにつれて、気に掛かる点も出てきました。私達のダンスは創造力、構成力、表現力等が問われます。自分たちはダンスで何を訴え表現していくのか、何を創ろうとするのかについて中高生に質問するのですが、その時、問題点や課題が見えてきます。一人一人に別な場所で見聞すると何と自分の考えを述べるのですが、集団になつたとき、一人一人に意見を聞くとなにも出てきません。他の人の目を非常に意識した傾向が強く何も言いません。自己決定力が育っていません。それを強く感じています。また、多くの中高の先生方に接してみても感じですが、今は現場の先生方が非常に疲れているなあと強く感じます。校務が忙しいこともあるかもしれませんが、私から見ると、先生方に基礎体力が付いてきていないのではないかと思います。早急に是非とも、先生方の気力、基礎体力を回復するための機会と場所を設定する工夫をし、それを実践して、元気に活躍して欲しいものです。

卒業生・若い同窓生に

「愛媛大学ダンスAZ」には、OB、OGを含め二百五十名近いファミリーで結ばれた「マキコズファミリー」が活動しています。関東、関西支部もあり、右記の名の下にそれぞれの地で飲み会をメ

インに活動しています。そこに見えてくるのは、私とOB、OG一人一人それぞれ結ばれているのではなく、それぞれが核とする人との横の繋がりを深めサークルになつて、そのサークルの核と私の絆を深めている関係があります。そして、大学に帰ってきたときは「ダンスAZ」のような帰る場所、今も変わらない居場所があることです。そして、そこでは私と以前のように共に汗する活動があり、旧交を深め情報交換をするなかで一段と喜びが深まってくるそのような場所が、大学の中に沢山生まれることを願っています。

そこには、「大学が何かをして欲しいと待つ」のではなく「我々同窓生は大学に何が出来るか」を積極的に大学に働きかけて頂ければ嬉しいのです。

まっこ先生のお人柄がお話に出ていて、時間を忘れて楽しいお話をお聞きすることが出来ました。折しも直ぐ近くの体育館、コートから弾んだ音や元気な声が爽やかな風となつてまっこ先生研究室に伝わってくる皐月五月の朝でした。





四年次

応用実習・他校種実習

四年生では、公立校での実習を通して教科指導力や生徒指導力を向上させたり、学校種の異なる学校で、子どもの発達を深く理解します。



今、学部は
こんな実習をしています

四年間で様々な実習を行い、
実践を積み上げることが出来ます。

三年次

教育実習

三年生では五週間、附属校園で教育実習を行います。一人で教壇に立って、授業や学級をまとめます。

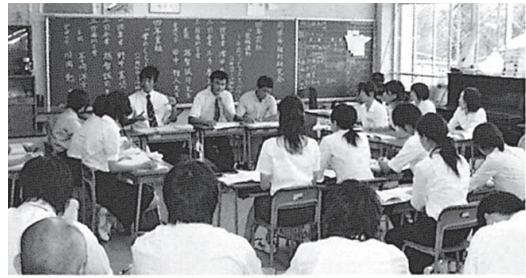


二年次



ふるさと実習 (教育実践体験実習)

二年生では、ふるさと（出身校）で、教師の仕事全般を観察します。授業だけでなく、学級経営や放課後の部活指導など、教員という職業を直接肌で感じます。



プレ教育実習 (実践省察研究Ⅰ)

来年の教育実習に向け、三年生の姿を観察して、授業の構成や教材研究の方法を身につけます。



一年次

観察実習

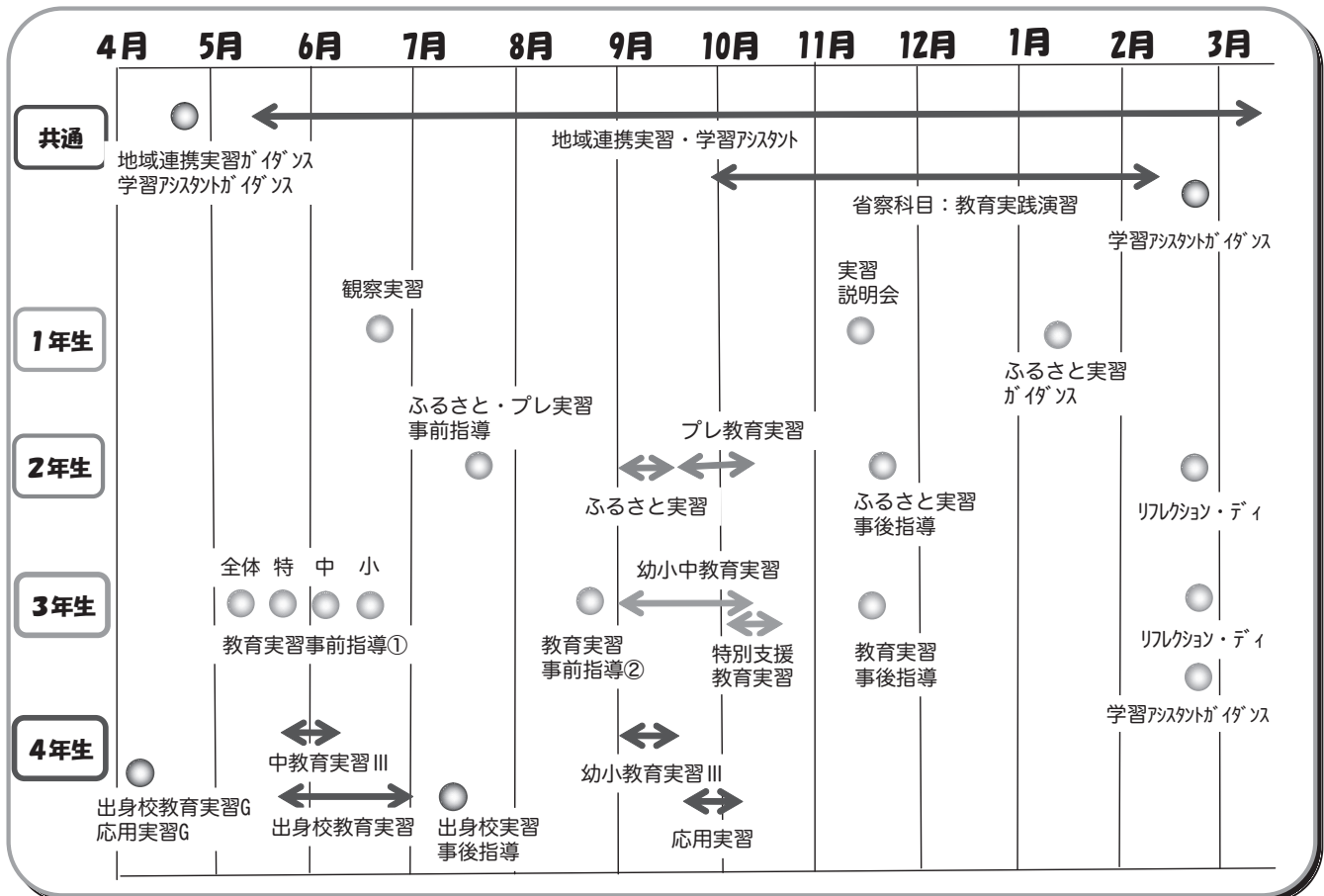
一年生では、附属校園などで、授業や子どもの活動を観察します。授業を受ける立場から授業をする立場へと、授業の見方を変えていきます。

●体系的な実践・省察を重視した実習カリキュラム

科目群 年次		実習・省察科目群			現代的課題・ 講義科目群
		教育実習科目群	省察科目群	地域連携実習科目	
4 年次	後学期	他校種実習 応用実習	実践力育成演習Ⅲ	地域連携実習 (インターンシップ型)	教職教養課題特講Ⅲ (課題別ワークショップ)
	前学期		リフレクション・デイ		
3 年次	後学期	教育実習	リフレクション・デイ	地域連携実習 (アシスタント型)	教職教養課題特講Ⅱ (学校・地域連携)
			初等教科省察研究Ⅰ・Ⅱ 実践力育成演習Ⅱ		
	前学期				
2 年次	後学期	ブレ教育実習 教育実践体験実習	リフレクション・デイ	地域連携実習 (参加型)	教職教養課題特講Ⅰ (学校教育)
			実践省察研究 実践力育成演習Ⅰ		
	前学期				
1 年次	後学期		実践入門	地域連携実習 (ふれあい型)	特別支援教育概論
	前学期	観察実習			

※教員養成課程以外の学生の実習は、主に4年次に行います。

実習関連の年間スケジュール(概要)



「愛媛大学教育学部サポーター制度」より

「コミュニケーション能力の育成」(第三回)

南海放送株式会社アナウンサー

合田みゆき氏講演より

第三回「コミュニケーション能力の育成」講座の講師として、平成五年本学部を卒業された、合田みゆき氏にお願いしました。合田氏は、現在南海放送アナウンサー室で活躍されていて、二児の母(二歳十ヶ月、七ヶ月)でもあります。後輩のために話していただいた合田みゆき氏の講義を、紙面の都合上、概要としてここに掲載いたします。

【概要】

私も教育学部を卒業しましたが、今本当に教育学部を卒業して



よかったです実感しています。今日、後輩の皆様の前でお話しできることは幸せで、嬉しく思っています。今日は、基礎的な話し方について、「このような話し方をすればいいのだなあ」「こんなことに気をつけて話せばもっといい話ができるのだなあ」と、感じて下さればありがたいと考えています。

今日は、話し方をワークショップ形式で行いますので、全員参加を願っています。そこで、皆さん遠慮なされず、全員が大きな声を出して参加していただければと願っています。

私は南海放送にアナウンサーとして入社、ラジオディレクターを経験し、その後報道部で記事を書いておりました。又、アナウンサーに戻ってきたのが昨年十月。その後二ヶ月ほどで産休に入り、この九月からまた戻ってきたというところで、TV画面では見たことがないと思っていらいっしやる方が殆どだと思います。そんな職歴を辿っておりますので、なかなか画面には映っておりませんが、現在では

ラジオ番組を担当しており、TVでは短いニュースを読んだり、今、南海放送が夕方ローカル放送をしている中で、リポートをしたりしています。

報道部時代にどのような取材をしていたのかといえは、我が家でもびっくりしたことですが、夜中の十一時頃ニュースデスクから、「今から新居浜に取材に行ってくれ。」と、突然電話がかかって参りました。とりあえずそこまでタクシーでということと、とまどいながら新居浜までタクシーで取材に行きました。

この事件では人が亡くなっていました。取材を通して事実を伝えると言うことで、私たちは取材をしているのですが、その取材というものが自然と心が重たくなるといふか、本当にこれを取材しなければいけないのかとの疑問が出てきたり、事件に携わる警察の方は、亡くなってしまった家の方はどう思っているのだろうかとか、凄くいろんなことを考えて取材をしています。

何故このような取材をしているのかということ深く考えた時に、やはり、事実を正確に伝えるということと、二度とこのような事が起こらないように、このように悲しむ人が出ないようにとの思い、そのような問いかけや訴えが

できればいいのではないかとの気持ちで取材しています。

やはり、被害者側の悲しい思いをした人たち、その時に悲しい思いをした方たち、その人たちの気持ちに本当に寄り添って取材をしています。でも、やはりお叱りを受けます。でも、やはり多いものです。本当にいろいろなことを考えながら取材しております。何故このような話を出したかといえますと、皆さんの今の立場でも、また、社会に出たときでも、他人を思いやることの大切さを感じながら生きてほしいと思うからです。

以上、仕事の紹介がてらお話をさせていただきます。

現在の仕事のことですが、ラジオの方で生放送をしていて、午後五時五十三分から六時二十九分まで生放送をしています。

その生放送、ラジオの現場では普通スタジオに喋り手一人か二人、ディレクター一人、アシスタントディレクターが一人と、三人ないし四人位で放送しているのですが、今は、それを総て一人です。音出しも喋りもです。それはどのようにしているかと言えは、今はパソコンでクリックをすれば音が出る機械が南海放送にはあります。

まずクリックをして音を出し、フェーダーと言うものでボリューム

ムを絞る音量を調節します。マイクのスイッチを上げて喋り始めます。喋り終わりましたらBGMの音量を上げ下げして歌の曲をポンと出すと言うような一連の操作を喋りながらやっていくという、その操作の手順を頭と手を連動させて一人で番組を進行しています。たまに、曲のセットが間に合わなくて「今、ちょっと曲をセットしていますのでお待ち下さいね。」といった、実況中継をしながら準備をしたこともあります。

よろしかったらこのように月から金まで、情報型ニュース番組を担当しておりますので聞いてみてください。

今日は皆さんにチャレンジしてもらいたいということで、幾つか



★発声練習

①ロングトーン「あ」

②あえいうえおあお
かけきくけこかこ
させしすせそさそ
たてちつてたとと
なねにぬねのなの
はへひふへほほほ
まめみむめもまも
やえいゆえよやよ
られりるれろらろ
わえいうえおわお

(鼻濁音)

がげぎぐげごがご

③無声化

「いただきます」「ありがとうございませう」

のワークショップ用の資料を準備してきています。まず一番初めにこの資料を使って、皆さんに参加していただきたいと思っています。

「あえいうえおあお、……………」

教職を目指す方は勿論、生徒の前で大きな声を出して授業を始めなければいけませんね。また、社会に出てからも、はっきりとした声で会話をすると言うことはとても大切なことになってきますね。

そこで今日は実際に声を出すことから始めたいと思いますので、どうかその場に立ってください。そこで、いい声を出すために、首や肩をほぐすような準備体操をし

てください。

ではまず、「あ」と言う言葉を、はい！「あ~~~~」これがある程度の音量で長く続いていくと長い文章であっても、一息で喋ることができます。それで、私たちはこのようなロングトーンを大事にしております。

今発声していただいたのを全体的に見て、感じたことは、とても口の形が綺麗です。明るく「あ」の声を出すと、明るい感じになります。ちよつと口の形を意識しながら「あ」をもう一度発声してみましょう。

「さんはい！あ~~~~」、とてもいい笑顔で「あ」が発声できましたね。皆さん少し恥ずかしがっているようで口の開け方が十分でないもので、もう少し口を開いて言ってみてください。

「さんはい！あ~~~~」「はいよろしいですね。」「今度からは二十秒くらい続くようになってくると、立派なアナウンサーになりますよ。」「今、声を出してみても、持ちよかったですか。日常では、お腹の底から声を出すことはあまりないと思います。学生時代に、このような大きな声を出して、自分の声はこれ位だと限界を知ること、普段の会話も、はきはきとした大きな声での喋りになります。」「では、もう一度大きな声で「あ~~~~」を発声してみましよう。」「大

きな声を意識して「あ」を息を沢山吸って言ってみましよう！さんはい！あ~~~~」「いい感じですね。今の皆さんの声はこちら私にバーンと来ました。私の声もかき消されてしまいましたね！今の「あ~~~~」の音が基本ですよ！」「では、次ぎ「あえいうえおあお」を言ってもらいます！」「これは口の形を意識し、確認しながら行います。「あ」「え」「い」「う」「え」「お」のそれぞれの口の形、舌の位置を確認しながら言ってみてください！」

「では一度試してみましよう！さんはい！」「あ」「え」「い」「う」「え」「お」「あ」「お」「口の形は綺麗ですが、言葉になるとちよつとずつ声が小さくなっています。もっと大きな声を出すことを意識して、さんはい！」「あ」「え」「い」「う」「え」「い」「い感じですね。皆さん、とっても優秀ですね。現在、そして今の愛大の学生さんは優秀ですね！」では次の「か」「け」「き」「く」「け」「こ」「か」「こ」を言ってみてください。さんはい！」「か」「け」「き」「く」「け」「こ」「か」「こ」

そこで、腹式呼吸を心がけてみましょう。「はへ……はほ」お腹で息を切るようなつもりで、とくにそうすると「は行」は発音しやすいです。では、「はへ……はほ」とお腹

に手を当てて発音すると、腹のへこみが確かめられるいい方法ですね。

次ぎに「まめみむめもまもまも」「られりるれろらろ」ラ行は少し難しいですが。

どうですか、声を出してみても、清々しい気持ちになってきたでしょう。放送研究会の人、今もこのような発声練習をしていますか。「はい、部室で」

次ぎに、鼻濁音をしていきましょう。鼻にかけて発音するので

初めの方は「んが」「んが」のようにするとできます。では、「がぎぐげごがご」を発音してみま

しょう。さすが皆さんは飲み込みが早いですね。普通の発音での「がげ……がご」の違いが分かりますか。皆さんが普通の生活の時にはどうしていますか。次のテキストのよすに、どのようなときに鼻濁音を使えば綺麗に聞こえるか、ちよつとだけ秘密をお教えします。私たちのアナウンサーの世界ではいろんな決まりがあるのですが、「鼻濁音をここで使う」という細かい決まりがあるのですけれど、一番綺麗に喋れる喋り方をお教えます。

それは、助詞の「が」です。たとえば「何とかしていますか」この助詞の「が」を鼻濁音にして言ってみてください。そうするととっ

ても綺麗な会話ができます。このように、助詞の「が」を鼻濁音にしていだけで、とてもお洒落な喋り方になります。ちよつと意識するだけですぐにできますので、普通に喋っているときでも、是非実践してみてください。

ただし、鼻濁音を使つてはいけない所は数字です。「5」を鼻濁音にするとおかしいので、数字は鼻濁音にしないで下さい。「リンゴ」の「ゴ」は鼻濁音、三つ目にある言葉は鼻濁音。「合田」の「こ」は頭に「がぎぐげご」がきているので、鼻濁音にしない。この時は、はつきりと発音し「がぎぐげご」と発音します。一番難しいのは「午後五時五十五分」ですね。

この鼻濁音の練習は徐々に練習してみてください。

後もう一つできる簡単な喋り方として、「無声化」があります。例えば「いただきます。」「の最後文末にきている「す」ですが。「いただきます」とはつきり言わないで、「いただきます」のように、文末の「す」を無声化します。「ありがとうございませう」「いただきます」のように、「鼻濁音」と「文末の無声化」を意識して喋ることだけで、皆さんはきつとワンランク上の大人の喋り方になりますね。

日々喋っている中で、少し気を遣うだけで、この二つはできると

大きなカブ

おじいさんが 煙に カブのタネをまきました。
「おおきく おおきく おおきくなあれ。あまくて おおきな カブになあれ」
すくすくすく・・・カブは おおきくなりました。

「どれどれ あまいカブになったかな」
おじいさんは カブを ひっぱりました。
「うんとこしょ」けれど カブは 抜けません。

「ばあさんや てつだつてくれ」
おばあさんは おじいさんを ひっぱって、
おじいさんは カブを ひっぱって・・・
「うんとこしょ」まだまだ カブは 抜けません。

「むずめや むずめ、手伝ってちょうだい」
むずめは おばあさんを ひっぱって、
おばあさんは おじいさんを ひっぱって、
おじいさんは カブを ひっぱって・・・
「うんとこしょ」それでも カブは 抜けません。

(中略)

(猫のミー)「チュータ、チュータ、てつだつてくれ」
チュータは ミーを ひっぱって、
ミーは コロを ひっぱって、
コロは むずめを ひっぱって、
むずめは おばあさんを ひっぱって、
おばあさんは おじいさんを ひっぱって、
おじいさんは カブを ひっぱって、
「うんとこ どっこいしょ!」

“ボン”

「うわあ」

とうとうカブは抜けました。

思いますので、使ってみてください。

次に、資料にある「大きなカブ」の文ですが、下読みをしてみてください。どうぞ!

皆さんの中で勇気をもって、読んでみようという人はいますか。

では、申し訳ないのですが、今私と目があつた首にマフラーを巻いて、のどを保護している男性の学生さん、アナウンサーの目からみていると、のどを大切に準備している姿勢に惹かれますので。

男子生徒S「大きなカブ」を読む。拍手

トップバッターだったのに大きな声を出して読んで下さりありがとうございます。また、この読みの中で、とてもいい課題を提供してくださいました。それは、とっ

ても声をはっきりしていて、いい感じだったのですが、更にうまく相手に伝わるようにというコツを伝授いたしますと、今、Sさんの声はとってもいい声で読んで下さったのですが、もっと良く伝えるためには、「おじいさんが、煙に、蕪の種を、まきました。」と読むとどんな感じに聞こえますか。

T君「分かり易い」

そう、分かり易いと言う利点もあるのですが、逆に、ちよつと切りすぎていて、読点は別にここです。休んで下さいという印ではないのです。これはやはり一文で読むのがいいので、だから、最初に練習したロングトーンが必要になってくるのです。

ですから、「おじいさんが……種をまきました」は、一息で読んでもらいたいと思います。

スムーズに読めるような感じになると、あゝ、あの人は上手に読んでいるなと思われるようになります。是非一文を繋げて読むと言うことを意識して読んでみて下さい。

子どもに分かつてもらえるように読むと、大人にも分かつてもらえますので、例えば、どんな風に読むかと言いますと、「おじいさんが煙に蕪の種を蒔きました」……「けれどもカブは抜けません。」今、二段落の所まで読んだのですが、この時に、自分がどのような思いで読んだかという

と、相手に伝えるというだけではなく、**状況を読んだ中でイメージしながら読んだですね。**それはどういう事かと言えば、「カブがすくすくと大きくなって、甘いカブになったのだなあということやイメージしながら読んだのです。」

そうして、「うんとこしょ」とおじいさんが引っ張っている姿も想像するのです。特に、想像してもらいたいのは、後半の文なのです。「チュータがミイを引っ張って、ミイはコロを引っ張って……」のように、引っ張っている順番をイメージしているのです。それだけで読み方が変わってくるのです。

すらすらと読んでいたのが、自分の中で想像して読むことで、自分も感情が入ってくると、相手にもそれが伝わってくるのです。

では、今後は下読みの際、頭の中で想像して読んでみて下さい。そうなると思ひます。ではもう一度男性の学生に読んでいただきます。

男子学生読む「……」拍手

特に光っていたのは「おおきなあれ」の所が本当にカブが大きくなっていく感じが良く出ていました。やっぱり想像して読んでいただけでしたね。

最初から何も聞かずに読んだのと、後で読んだのではどうでしたか。違いがありましたか。どのような違いがありましたか。

T生「イメージがよく湧いてきて読みながら楽しかったです。」

合田「そういつてもらえるとよかったです。このようにイメージをもって読んでいただければ大丈夫です。」女性で最後まで心を込めて読んでいただいていたRさんにもう一度読んでいただきます。

Rさんに読んでいただきましたが、ここで素晴らしかったのは、「うんとこしょ」と言うかけ声の所ですね。雰囲気違って聞こえましたね。最後の所が「うんとこしょ」と、ちゃんと抜け出したという感じが出ていましたね。それと、「甘いカブになったかな」と覗き込んでいる様子が伺えるような雰囲気が出ていたのだ

とても素敵でした。最後まで熱心に練習していた姿勢がそうさせたのかもしれないですね。

ちよつと皆さんにアドバイスしただけでこれだけ素敵な読みに変わってきましたね。これから小中高で教壇に立つ方、生徒の前で話すときには、このようにイメージしながら話すだけでも、相手に伝わるものが大分違ってくるものと思いますし、社会に出て会社で働くことになつても、プレゼンテーションとかをしなければならぬ場面に出会うと思うので、そういうときにはただ棒読みをするだけではなく、これはこうなんだと自分で頭の中でイメージしながら喋るだけで、間合いとかが違ってくると思ひますし、力を入れるところだつて違つてきます。

その「うんとこしょ」ということも大勢の人数で引いている「う



わかりました。



教育学部「学生サークル活動」紹介

平成二十二年における教育学部「学生サークル活動」は、体育系四団体、文科系十八団体の計二十二団体が活発に活動しています。

愛大全体では、約二百五団体が活動しており、その内訳は次のような表になっています。

	体育系	文化系	計
全学部共通団体	72	49	121
学部別所属団体			
教育学部	4	18	22
法文学部	9	9	18
理学部	1	1	2
医学部	22	12	34
工学部	0	1	1
農学部	4	3	7
計	112	93	205

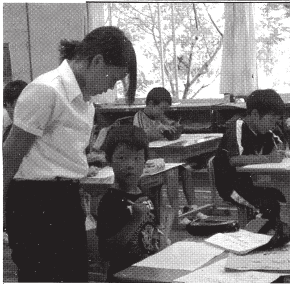
正課外教育に積極的に参加し、意欲的に実践していくことは、社会で必要とされる自律性・協調性・指導性・創造性などを身につけるための重要な場になります。

そこで、愛媛大学では、正課教育だけでなく、正課外教育の充実を目標として、様々な支援を行っています。現在には表に示したように、体育系、文科系の約二百団体を超える団体が登録され活動しています。最近では、全国大会に出場して優秀な成績を修める団体もでございし、その活動は益々盛んになってきています。

「大学教育は人なり」と言われるように、国際化社会に逞しく飛翔する学生の人間形成を目ざし、学生がサークル活動を通じて多くの仲間と知り合い、共に苦しみ、励まし合い、切磋琢磨しながら、よりよい大学生活が過ごせるよう期待し支援しています。

今回は、その中であって、長い歴史を持ち、幾多の優秀な先輩諸氏を輩出している「児童文化研究会」の活動を紹介します。

団体名 作文の会



私たち「作文の会」は「作文を書くサークル」ではありません。メイン活動は「サマースクール」で毎年8月に3泊4日で小規模小学校へ行って授業を行ったり、運動会や水泳大会で子どもたちと触れ合います。こんな素敵な経験はめったにできません。気になる方はぜひBOXへ☆

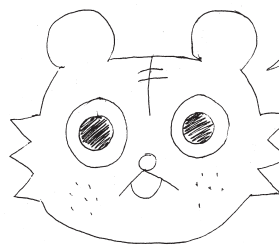
昨年のサマースクールで行った授業の、一コマです(ボイタ)

子どもが大好きな人、集まれい〜

2Fに上がってBOXのドアを叩いてください
教育学部355号
学生食堂
5階
馬車場3

代表者： 教育学部 氏名 柳瀬 宏紀
連絡先： 090 - 1472 - 7228
顧問教員： 教育学部 氏名 三浦 和尚
部員数(平成22年4月現在)： 男 4人、女 10人 計 14人
HPアドレス：

団体名 愛大俳句研究会



ご入学おめでとうございます☆

俳句をつくって みんなで句会をしています。外に飛び出してつくることもあります。

活動場所：教育学部 国語科演習室

時間：18:30～

みんな仲良くて楽しいサークルです！是非遊びに来てね

年間行事予定
合宿
砥部動物園
その他今行たくみん☆

代表者： 法文 学部 氏名 宇谷 和久
連絡先： 090 - 7579 - 2761
顧問教員： 教育学部 氏名 中西 淳
部員数(平成22年4月現在)： 男 2人、女 3人 計 5人
HPアドレス：

★ 団体名 聾教育研究会 ★

★ 特別支援教育 聴覚言語障害コースの方は自動的に入部となります。1回生～4回生 みんなでの活動も年に何度かあります。仲よくしましょう♡♡♡



5月 石井修旅行 in みんなの家
卒論中間発表やバベモをします。
8月 ひまわりサマーキャンプ in 八幡平
2泊3日で、ろうや難聴の子どもたちと楽しくふれあいます。
2月 卒論発表会・追込コン

※他学科、他コースの方は入れません。
活動場所
聾教育研究室
教育学部東4号館1階です。

代表者： 教育学部 氏名 橋 侑加
連絡先： 090 - 4979 - 4100
顧問教員： 教育学部 氏名 高橋 信雄
部員数(平成22年4月現在)： 男 3人、女 27人 計 30人
HPアドレス：

団体名 数学研究会

私たち数学研究会は週一回模擬授業を行っています。数学だけでなく国語、理科、社会など様々な教科を扱っています。また、授業後には皆いろいろな遊びをしています。楽しいサークルです。

＜年間行事＞
4月 お花見
5月 一泊合宿
8月 夏合宿
12月 クリスマス会
1月 スポーツ大会
2月 追込コン
3月 春合宿

2階目
ボックス
食堂
興味がある人はボックスへ!!

代表者： 教育学部 氏名 辻田 奈津美
連絡先： 080 - 6397 - 5912
顧問教員： 教育学部 氏名 岡本 俊明
部員数(平成22年4月現在)： 男 5人、女 3人 計 8人
HPアドレス：

児童文化研究会

教育学部2回生
山下亜由利

こんにちは。今回、この場をお借りして、教育学部サークルの児童文化研究会を、紹介させていただきます。

我が児童文化研究会は、サークルのメンバー全員が参加する全体活動とメンバーがそれぞれ分かれて参加する部門活動に分かれています。全体活動では、子どもと関わる活動を一から作り上げます。

例年、八月上旬に、愛媛県内の小学校で「サマースクール」とい



う活動を行っています。「サマースクール」とは、その小学校の子どもに、オリエンテーリング・キャンプ・ファイヤー・飯盒炊爨・などをする機会を提供しながら数日間を小学校で一緒に過ごすことを言います。

メンバーは、オリエンテーリングやキャンプ・ファイヤーなどの活動ごとの担当に分かれ、主に二回生が中心となって活動の企画・立案をしていきます。私達は、サマースクール本番までにいくつかの順序を踏んでいきます。まず、「新しいことを何か取り入れるか」「雨の場合はどうするか」など、すべての動きを白紙の状態から決める題材案検討をします。次に、題材案を元に時間に照らし合わせた指導案に不備・疑問がないかをチェックする指導案検討に移ります。本番までの話し合いは、週に一回、四〜五時間程度話し合います。白紙の状態から活動を作るのに加えて、みんな考え方が違うので、意見の衝突は当たり前です。しかし、皆それぞれ、子どもを楽しませたいという強い思いを持っているので、自分の意見に自信を持っています。そんなメンバーの意見は周りの人の考え方にも影響を与えます。その後、サマースクールで使う備品を作ったり、各活動の説明をする司会の練習を全員の

前でしたりする準備・リハーサル期間があります。この期間は、大学のテスト期間と重なっているのですが、メンバーは毎日毎日、サークルに、勉強に追われることになりませんが、サマースクールを成功させたいという熱い思いでなんとか頑張っています。

昨年は、西予市立多田小学校でサマースクールを実施させていただきました。初日は、各教室でおとぎ話にちなんだキャラクターが登場し、様々なゲームをしながら校舎内を回るオリエンテーリング、二日目はメンバーが各学年に分かれてついて昼食やプール、工作を子どもと共にする学年の時間、一緒にカレーライスを作る飯盒炊爨、歌や踊りを交えたキャンプ・ファイヤー、夜の校庭を回るナイトオリエンテーリングをし、最終日はチーム対抗で得点を競う全体ゲームをしました。学生にとつては準備をしたり、順序を子どもに説明したり、子どもの安全管理をしたりとてもハードスケジュールでした。しかし、その自分達にとつての実りもたくさんありました。子ども達とも、日を重ねるごとに打ち解けることが出来たり、自分達が一から企画した活動で見せる子ども達の笑顔に本当に幸せだと気付く自分に出会えたりしました。今回、一回生が作っ

たサマースクールの歌を子どもと歌う機会が多かったのですが、最終日の閉校式で歌ったときは、何人もの学生が涙を流していました。大変なことがあっても、最後までやり抜いてきた達成感や、子ども達と離れてしまう悲しさなど、たくさん感情が一気に込み上げてきました。そして、子どもに楽しんでもらえて、自分達も成長できるサマースクールを今年も行うことが決まりました。去年にも増してパワーアップしていきたいです。

また、後期の全体の活動には「子ども大会」があります。今年は、南久米グラウンドで行いました。午前中は、「エココーナー」「スポーツコーナー」「祭りコーナー」などの各コーナーに分かれて子ども達が自由に回れるようにして、午後から運動会をしました。運動会の種目は全てメンバーが考えたものです。実践・反省をして、入念に改善を重ねてきた種目です。自分達が考えた種目で一生懸命に汗を流す子どもを見て、今までの過程が報われたような気がしました。また、愛媛新聞にも「子ども大会」のことが取り上げられ、私達の活動が紹介されたことも、大変嬉しく思います。

次に、部門紹介をさせていただきます。まず、「地域部門」は



松山市立清水小学校を対象とした「なかよし子ども会」を持っていて、レインボーハイランドに行く「日帰りキャンプ」、公民館と一緒に団子を作る「団子まつり」などの企画・運営を行います。また、公民館やコミュニティセンター、子どもの城で巨大紙芝居を読む「文学部門」、人形劇を行う「文化部門」もあり、それぞれの部門がそれぞれに地域貢献を果たしています。

このように、児童文化研究会には、子どもと関わるのが大好きで、将来に活かしたいと思うメンバーが集まっていて、日々子どものために何かできることはないかと模索しています。これからも、たくさん活動に精一杯取り組んでいきますので、児童文化研究会をどうかよろしく願います。

職場だより

言葉はビタミン愛



西条市
丹原小教諭
平井 明花
(平十九卒)

愛媛大学を卒業して四年目の今年、ようやく新規採用教員として新たなスタートをきることができました。決して平坦に進んでいないのが、いかにも私らしいなと思ったりします。その中でも、くじけそうな時に私に力をくれたのは「言葉」でした。

振り返ると私がこの職へのあこがれを抱き始めたのは、小学生の頃にさかのぼります。灰谷健次郎さんの『先生けらいになれ』を読んで、「自分と同じ小学生が、こんなにやわらかでおもしろい発想をしているんだ。」「子どもたちもすごいけれど、これを引き出せる先生もすごいなあ。」と、深く感動したことがきっかけでした。他の作品に登場する作中の先生もみんな魅力的で、とても好きでした。

ここから言葉にこだわる私の人生が始まります。大学では国語教育を専攻し、ボランティア活動を通して子どもとのかかわり方を学びながら将来の夢を見据えて意欲的に活動しました。

そしていよいよ、あこがれの「教師」として歩み始めました。講師と言っても子どもから見たら先生であることに変わりはありません。未熟な私を受け入れ、とても慕ってくれる子どもたちもいれば、教師として半人前であることを許してくれない子どもたちもいました。初めて受け持った子どもたちは、元氣いっぱい、五年生十五名でした。自分が未熟であり、魅力的な授業もできていないのに、こちらの理想をおしつければ反発してくるのも無理はありません。子どもとの信頼関係がなかなか築けず、悩む日々が続きました。

ある日、授業態度の悪い男の子を注意すると、「俺らの今までの先生はみんなおもしろかったんじゃない。先生の授業はおもしろくないよ。」という返事が返ってきた。

ました。教室が凍りつききました。「そうか、私が悪かったんやね。ごめんね。」そう言い残し、教室を飛び出してしまいました。自分があまりにも情けなく、溢れ出る涙を抑えることができませんでした。しばらくして、気持ちを落ち着かせて教室に戻ると、「先生ごめんさい。」「先生大丈夫?」と、全員がかけよってきました。中でも、いつもふざけたり、反発ばかりしてきつい言葉を発する男の子が、「先生、今日の昼休みは全員で遊ぼうね。先生も入るんよ。」と言ってくれました。自分とぶつかってばかりいたその子からの、思いがけないあたたかい言葉に、再び涙が止まらなくなったことは言うまでもありません。子どもたちはもちろん、周りの先生方にも助けられ、支えてもらってばかりの一年間でしたが、絶対に忘れられない、私の教師としての礎をつくってくれたかけがえのない一年になりました。今でも当時の子どもや保護者の方からは、「先生、今年は泣いてない?」と手紙をもらいます。

その後は目の前の子どもたちに夢中になり、学校生活の楽しさと忙しさを理由に教員採用試験の勉強は完全に二の次状態でした。大

学時代に、共に教員を目指してきた友人たちがみんな先に合格してしまつて初めて、大きな焦りが沸き起こりました。たくさんの先生

方が、本気の言葉で叱咤激励してくださいました。その中でも当時の学校の庁務員さんから言われた言葉は忘れられません。落ち込み、いつも優しい庁務員さんにちょっとしたぐさめてもらおうと思った私は自分の心境を話しました。すると庁務員さんは厳しい表情で、「甘えたらいかんよ先生。お金をもらいながら勉強させてもらえるなんて他にはないよ。まだ合格せんのは、先生にあと一歩足りるところがあるからがんばれって、神様が言ってくれよるんよ。先生なら大丈夫じゃけん、がんばらんかい。」

と言ってくださいました。本気の言葉に目が覚めた私は、自分自身に理由をつくって甘やかすことをようやくやめました。そして、四度目の挑戦で、試験に合格しました。しかし、庁務員さんは病気で急逝されました。合格の報告ができないままになってしまったことが、今でも残念でなりません。庁務員さんのこと、自分の夢の実現までの道が困難であつたけれど、夢はあきらめなかったら必ず叶う、努力は人を裏切らないという

ことは、これから出会う子どもたちに語っていききたいことです。

さて、今年はやんちゃ盛りの、パワフルな四年生三十四名と奮闘の日々です。日に日に丹原っ子に魅了され、好きになっていきます。しかし、まだまだ課題は山積みです。自分の願いどおりにならずくじけそうになる私に、先輩の先生方がたくさん言葉の栄養——ビタミン愛をくれます。「苦しむためじゃない。楽しむために先生になったんやろ。」「基本的にやる気のない子はいないよ。担任の先生のこと好きなんよ。」「前向きな言葉はものすごいエネルギーになります。私も前向きな言葉で、子どもたちと向き合っていこうと思います。

最後に教育実習で、担当の先生からいただいた言葉で締めくくろうと思います。「この道より我を生かす道なし。」「これからも子どもたちとともに、言葉と、その奥にある心と感性を磨いていきたいです。

(☎)
793-0061 西条市禎瑞

三四〇一一

経験を生かす



越智郡上島町
生名小教諭
井原 賢一
(平二十卒)

「がんばれ、打て。」

五月晴れの青空のもと、元気のいい子ども達の声が運動場に響きます。スポーツクラブはたった六人しかいませんが、ルールを工夫して野球をしていました。

「やった、打った！ あーファールや、おいしいな。」

クラブの最強打者が打った球はフェンスを越え、海へ……。ボールを取りに私も泣く泣く海へ……。

現在、私の勤務している生名小学校は瀬戸内海のほぼ中央、芸予諸島の東側にある生名島の唯一の学校です。今治から車で行こうと思えば、しまなみ海道を渡り、一度広島県の因島まで行つてからフェリーにのらないと行けません。学校から県道を挟んですぐ前に海があり、運動場から船の往來を楽しむことができますが、先ほどのようなハプニングもごくたまにあります。



生名小学校のいいところは、全校みんなが仲の良いところ。全校児童が四十七人しかいないこともあり、休み時間には学年の垣根もなく、みんなで遊んでいます。赴任した日に、先輩の先生が全校児童の名前や性格や特徴をよく知っており、驚かされました。同時に、私も全校児童の名前なんて覚えられないのかと思いましたが、休み時間や課外活動などで子どもたちと一緒に活動していく中で、自然に覚えていました。これまでの生活を振り返って、大学の間に経験しておいてよかったなと思うことがいくつかあります。その一つに学習支援アシスタ

ントがあります。私は、四回生の時に全校児童が三十人弱という小規模校でアシスタントをさせていただきました。五・六年生の複式学級で国語や算数の授業で担任の先生のお手伝いをさせていただきました。担任の先生が間接指導をしている間、子どもが課題に取り組んでいるのを手助けしました。また、時には片方の学年の指導をさせていただくこともあり、特に印象に残っているのが、五年生と算数の時間に三角形の内角の和が百八十度であることを使って、角の大きさを求める授業です。教科書に出ている三角形を色画用紙で作り指導しました。前の時間に学習したことを振り返るために、三角形を折って角を集めたり、三角形をちぎって角を集めたりして教えました。すると、算数のあまり得意でなかった子どもも理解することができてとてもうれしかった記憶があります。授業の準備を十分にしておくことが大切だと感じました。学級事務や校務分掌上の仕事をしていた、授業準備がおろそかになってしまったところがあると、このことを思い出し反省しています。

この学校も全校の仲が良く休み時間には多くの学年の子どもたち

と遊びました。さらには、いろいろな学校行事にも参加させていただきました。アユの放流や稲刈り、運動会にも参加させてもらいました。また、担当させてもらった五・六年生の授業以外にも、低学年の町探検と一緒に連れて行ってもらったり、三・四年生の研究授業を見せていただいたりしました。この、いろいろな学年と活動した経験は今の生活に大いに生かされています。

私は卒業して初めて担任をした学年は二年生でした。初めての学校生活に不安もありましたが、二年生の担任は楽しみでした。それは、地域連携実習で二年生と関わっていたことがあるからです。先ほどの学校とは違い一学年が四クラスもある大きな学校で、算数の授業補助をさせてもらいました。同じ単元でも担任の先生によっていろいろな指導方法を工夫されていて勉強になりました。二年間活動したので、子どもたちとも次第に人間関係ができてきて、ほめたり注意したりということが自然にできるようになりました。

私が大学時代に実習に行くときには意識していたことがあります。それは、私が一回生の時に先輩に言われたことです。

「経験と体験は違う。どうせ実習に行くなら、『やった』という体験ではもったいない。やったことを自分のものにして、経験として蓄積しない。」

現在、周りの先生に助けていた大きながいろいろな校務をさせていただいています。仕事もただこなすのではなくしっかりと経験として積んでいきたいと思っています。

振り返れば、今までに多くの人に支え、助けてもらっています。大学時代には実習先の先生方や関係者の方々。現在は授業のことや仕事について夜遅くまで熱心に教えてくださる同じ職場の先生方。私にはまだまだ力不足の面がたくさんあります。子どもたちとともに活動し、また一つ一つ経験をかさね、教師としての力を高めます。そして、子どもの未来のために生かしたいと思っています。

(☎)
794-2550

越智郡上島町生名

六二五



限られた時間を 精一杯



八幡浜市
日土東小教諭
上甲 康代
(平十卒)

教師という仕事に就き、たくさんの人と出会うことができた。

私は、教員採用試験に七回目にしつてやっと合格した。だいぶ遠回りをしつてしまったが、その間、講師として七校の学校に勤務させていただいた。現在は、九校目。教師七年目となった。たくさんの子とも達と出会い、先生方と出会い、地域・保護者の方と出会うことができた。私が担任をした子どもは、およそ三百人ほどになった。そう思うと、改めてその子どもたちに何を教えることができたのだろうかと考えさせられる。

講師の時と比べ、今は責任も大きくなり、学校全体のことを考えてやるべき事が増えてきた。責任をもつて、いろいろな経験を重ねてきた分、少しずつ成長してきたなと思う。しかし、足りなくなってきた部分があるのでと感じている。それは、「時間の重み」である。講師の時は、産休・育休の先生の代員であることが多く、長

くて一年、短くて何ヶ月かの勤務だった。新しい出会いがある度に、別れる時間が決まっていた。一日一日が、カウントダウンで、自分にできることを精一杯した。地域のことを知らなくても、だれかれ構わず挨拶をして、探検しながら教材を探したり、子どもがやってみたいということは何でもチャレンジしたり、教材研究をするのにいろいろな先生に聞いてまわった。子どものことを考えて、自分にできることを力いっぱいやって

いた。周りの教師にも恵まれ、未熟な私に、「若いんやけん、何でもやってみたいいい。責任はわしがつとるけん。」「やりたいことがあったら、いつでも言うて。手伝うよ。」と、言うてくださる先生方ばかりだった。

下手な指導でも、一生懸命は子どもに伝わっていたらしく、離任の時に「どうして、先生やめるん。ぼくらがなんかしたけん。お母さんらがやめさせるん？やめさせんとつて。」と、母親にお願いしてくれた子もいた。ある学校では、一人の男の子がいつもトラブルを起こし、学級経営がうまくいかなかった。でも、最後の日に、その子が、「いつも迷惑をかけてすみませんでした。毎日、話を聞いてくれてありがとうございます。」

と書いた手紙を泣きながらくれた。今思うと、もつといい指導の仕方があったろうし、もつとその子を伸ばすこともできただろうと未熟な自分を反省する。でも、一日一日を一生懸命向き合った分、その子にとって、私は意味のある存在だったのだろうと思う。

「限られた時間」は、昔も今も子どもにとっては同じである。一度きりの一年生、二年生、三年生……。今、目の前にいる子どもは今しかない。だから、一年一年を子どもにとつても、自分にとつても悔いのない一年にしていきたい。講師の時に感じていた「時間の重み」を忘れることのないようにしたい。ある先生に言われた言葉がある。「教師は、結局は人間がつまらんかったらいい教師にはなれんよ。どれだけ子どもものことを考えてできるかが大事。手抜きをしようとするれば、いくらでもできる。やらなくてもいいけど、やったほうが子どもにとっていいこともたくさんある。教師は『子どもありき』で。つまらん人間にはなるな。」全くその通りだ。仕事を早くこなすことや、上手い授業だけにとらわれて、子どもが見えなくなってしまうては意味がない。まだまだ、指導は未熟だが、目の前の「子どもありき」で、限られた時間を精一杯がんばれる教師でありたいと思う。

今の勤務校は、四年目になる。山の上の小規模校であるが、地域の教育力がすばらしい学校である。毎年、いろいろなことにチャレンジさせていただいている。地域探検では、保護者の方が時間を惜しまず、いろいろな名所を案内してくださった。産業調べでは、どの仕事場の方も快く見学を引き受け、丁寧に説明してくださった。

地域のおじいちゃん、おばあちゃんが元気で、苗植えや草引き、芋掘りにはたくさんの方が来てくださり、自分の孫のように子ども達に接してくださった。地域の良さを感じると共に、「人」の教育力を強く感じた。

そして、昨年は、NHK合唱コンクールに全校児童で取り組んだ。日土東小は九年間の長い間、合唱活動に取り組んでおり、少人数ながらたくさんさんの賞をいただてきたすばらしい歴史がある。そんな中、音楽経験のない私が、指揮者として舞台に立たせていただいた。先生方と四苦八苦しながら、練習を重ね、たくさんの方が力を貸してくださった。ステージでの子とも達の歌声は、鳥肌が立つくらい美しく、その真剣で生き生きとした表情は忘れることができない。子ども達の持つ力のすばらしさに感動し、それを支えてくだ

さつた方々へ感謝の気持ちでいっぱいになった。子どもたちと共に励み、共に泣いて笑った一年だった。卒業式の日、ある保護者が、「先生、教師という仕事は本当にいい仕事ですね。ありがとうございます。」と言ってくださった。

三年前に他界した祖父も教師だった。私が試験に落ちる度に、「失敗は、それだけチャレンジした証拠ぞ。あきらめずにがんばれ。」と、励ましてくれ人だった。教師になって本当によかったと思う。教師という仕事で、自分に何ができるかを考えながら価値のある一日、一年を送っていきたい。

(☎)
796-8020

八幡浜市郷

二一七二一



ボーダーレス時代の 世界に生きる子どもたち



松山市

附属小教諭

白石 貴士

(平十三卒)

「先生、まだオーストラリアからの返事来ないの？」

「まだやねえ。昨日、話をしたらもう送っていると言っていたから、もうじき着くと思うよ。」

「よかった。私の質問に答えてくれてるかなあ。」

これは、昨年度、担任をさせていただいていた第四学年の子どもとの会話です。この年、国際交流センターの協力の下、韓国やハワイの留学生との交流をもつことができていたのですが、留学生との都合がつかず、年間を通して継続した交流が続けられないでいました。しかし、子どもたちには、外国についてたくさんを知りたい、外国の人とたくさんかわりたいという意欲が充ち満ちていました。そのような中、オーストラリアの小学校の先生が日本の小学生との交流を希望しているということをALTの先生から聞き、子どもたちに紹介しました。もちろん子どもたちの反応は、「(交流を)

やるー」でした。

私が小学生だったころ、今から二十年ほど前を振り返ってみると、外国の人と交流することなど思ってもいませんでした。外国の人が周りにいるはずもなく、外国語を使う機会などありませんでした。しかし、今、学校にはALTの先生がいらっしやつて、英語を使ってコミュニケーションをとったり、インターネットを通じて外国と気軽にコミュニケーションをとったりすることができるようになってきました。世界がBorderlessになってきていることを学校現場で身をもって感じる事ができています。

さて、オーストラリアの小学生との交流ですが、子どもたちとともに交流内容を決め、日本の伝統的な遊びを紹介することから始めました。相手方の小学校では日本語を学習していることから簡単



な日本語を使った紹介を考えました。どのような日本語を使えば相手に伝わるか、どのように言えばより伝えることができるのか、どのようなものを使えば言葉だけに頼らないで伝えることができるのかなど、オーストラリアの小学生に伝えるという目的意識や切実感をもって取り組ませることができました。冬休み前だったの

でHappy Holidays Cardも作り、できあがったビデオと一緒に郵送しました。その後、子どもたちからは「先生、まだ返事来ないの?」「ビデオ見てくれたかな?」など、自分たちの言葉が相手に伝わったかどうか不安な様子や、返事を心待ちにしている様子があふれ出していました。交流することに意欲をもっている子はたくさんいましたが、コミュニケーションをとる楽しさや相手のことを知る喜びを感じing子が増えてきたように思います。

現在、中国の経済が活発で、中国語を学習している学校が世界的にも増えているようですが、オーストラリアのゴールドコースト近辺では、日本人の移民が多いそうです。仕事関係だけでなく、退職後の第二の人生をおくる人が移り住むようで、現在七千人ほどの日本人がいるそうです。だから、相手の小学生は日本語を学習しており、日本語で交流することができ

ました。オーストラリアと日本の意外なつながりも学習するいい機会になりました。ともあれ、国際の授業が日本語中心でできることは子どもたちにとっても英語を無理に使わなくてもいいので、気軽に取り組めました。

その後、二回ほど手紙のやりとりが続きました。手紙のやりとりをする相手を決め、その子の好きな食べ物を聞いたり、はやっている遊びを紹介したり、折り紙を折ったものを貼り付けたりする工夫も見られました。とにかく子どもたちにとって、同い年の小学生であること、やりとりをする相手が決まっていることが、何よりのやる気を生み出すものとなっていたようです。

そして今年度、私は第五学年の担任となりました。昨年度担任をしていた子どもたちもいる中、さらなる交流を深めていく予定です。国際の授業から外国語活動となり、手紙で交流していたものをインターネットのビデオチャット機能を使った交流を付け加え、「コミュニケーション能力の育成」を目標に、Borderlessの世界で活躍する子どもたちとともに学習を深めていきたいと思っています。

(☎) 790-0931

松山市西石井

六一九一

<http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~dosokai/>

dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

教育学部同窓会
インターネット
開設しています!

メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。お待ちしております。

教育学部同窓会
ホームページ完成!

URLは上記

支部活動、会合イベント等のスケジュールなど、タイムリーに情報をお知らせします。

同窓会員同士の交流を深めるために、できれば、掲示板を設ける準備をしています。

過去に感謝 今に挑戦
未来を創造

大洲市

河辺中教諭

矢野 香織

(平十七卒)

あれから六年という年月が経ちました。

教師という夢を追ひ、友達と切磋琢磨し、励まし合いながら猛勉強に明け暮れた大学三年の冬。合格予定数は五名と、前年度の半数となり、くじけそうになったあの日。図書館にこもり毎日何時間も勉強し、友達と教育についてムキになって語り合ったときもありました。教師になりたいと強く願った大学四年の初秋、念願の採用試験の合格通知をいただきました。

初任校は今治市にある大規模中学校でした。希望をふくらませての教員一年目でしたが、実際のところは、講師経験をすることなく教師となったことで、「明日起こること」に不安を感じていました。学校の一年間のビジョンどころか一日の生活の流れが分からず、学校要覧をながめ、先輩の先生方の一つ一つ質問しながら毎日を過ごしていました。今となつては笑い

話ですが、自分にとって何が必要なのか分からず、職員朝礼の各先生方のお話を一言一句速記していたこともありました。

同校での二年目。まだまだ疑問だらけの毎日でしたが、ついに一年生の学級担任をさせていただくことになりました。「笑・笑・泣・笑」という学級目標のもとでの学級経営は、本当にその言葉通りでした。毎日ハプニング満載で、とにかくパワフルで明るい学級でした。

笑いにあふれた学級でしたが、一度だけ涙を流して生徒を叱ったことがあります。それは生徒が級友に対して「死ね」と口走ったときのことです。私自身、この数ヶ月前に実母をなくし、「死」という言葉の意味を深く考えていたときの出来事でした。口走った理由は、些細なことで、到底、人の死に値するようなことではありませんでした。絶対に許してはいけないという気持ちにかき立てられたのと同時に、自分の学級経営力の低さを感じ、自己嫌悪に陥りました。怒鳴り散らしながらも、情けないのと悲しいのとでも私も生徒も大泣きをしていたことを覚えています。

最初は、不安ばかりの学級でしたが、笑ったり、泣いたり、真剣

に話し合ったりして、いくつもの山を乗り越えていくうちに、教室は「あったかい私の居場所」となりました。

離任する際に、泣きじゃくる生徒を見て、「あんなに叱ったのに……」と少し申し訳なく思いましたが、本気でぶつかれば、いつかはわかり合えることを知りました。生徒にとっても教室が「あったかい居場所」であつたならばこれほどうれしいことはありません。

教員三年目の春、全校生徒五〇〇名の大規模校から全校生徒二十三名という現在勤める河辺中学校に転任しました。大自然のもとで、素直な生徒、温かい保護者や地域の方々とともに営む教育は実におもしろく、充実したものとなつていきます。しかし、年数を重ねるうちに「慣れ」が初心を見失わせているような気がします。

今回この手記を書くにあたり、自分の歩んできた道を何度も振り返りました。きつと、「今一度、初心に返りなさい」という示唆をいただいたのだと思います。

合格通知をもらったときのやる気はまだみなぎっているか、ファイトと日々頑張る姿勢を保っているか、教室は自分にとつても、生徒にとつても「あったかい居場所」



となつているか、と様々な観点から自分の教師度をチェックしてみると、昔の自分がお手本となつている部分もあるような気がします。

実母が亡くなり暗く沈んだときに救ってくれたのは、生徒の無邪気な笑顔でした。学級経営でつま

ずきかけたとき、勇気をくれたのは、生徒があゆみに書いてくれた詩でした。部活動経営で悩んでいたとき、「また、頑張ろう!」と奮いたたせてくれたのは、生徒が書いた心のこもった手紙でした。

思い返せば、我が五年間は生徒中心の毎日でした。生徒の言動によって一喜一憂することはプロの教師にとつてあるまじき行為かもしれませんが、心通わせながら教員人生を送ってきた証拠だと自負

しています。

私は「今」好かれる先生を目指してはいません。けれども、十年後、二十年后に好かれる先生を目指しています。教えるプロとしての誇りを持ち、先を生きる人間として、自分の後を歩く後輩に、良き道の歩き方を教えたいと思っています。

教師とは本当にやりがいのある仕事です。生徒の成長は自分の成長であり、自分の成長は生徒の成長でもあります。初心忘れることなく、小さな労をいとわず、これからも一所懸命に教育に励みたいと思います。

今の今まで支えてくださったすべての人々に感謝し、今目の前にある難題、課題に挑戦し、すばらしい未来を創造していきたいと思っています。

永遠に続く「教師人生奮闘記」の第一巻をお届けしました。第二巻は五年後に編集したいと思っています。初心忘れるべからず……。

(☎)
797-1605

大洲市河辺町

河都三七五

学部最近のニュース

「わくわくチャレンジサタデー」の

活動に感謝状

平成二十二年四月一日（金）、教育学部長室において、久米公民館、八坂公民館、東雲公民館の三公民館から、学生企画型地域連携実習「わくわくチャレンジサタデー」の活動に対し、感謝状が贈呈されました。



感謝状贈呈式

「わくわくチャレンジサタデー」は、「サタデースクール」を学生たち自ら企画運営実施する活動で、学生の想いからスタートし、地域（公民館）の要請とをすり合わせる形で平成十七年五月より五年間継続的に運営されています。月に一〜二回、授業の時間・人



表彰状（学生代表：杉本奈月さん、谷本晴香さん）

間関係づくりの時間・遊びの時間を学生自ら企画しながら、一年間の学校運営を通して「子どもたちの居場所づくり」を行っており、「塾」「レクレーション活動」ではなく、「サタデースクール」として五年間自主的運営を行っている活動は、全国的にも類をみない活動です。

この活動が五年目の節目を迎え、活動を行っている学生代表と活動を支援している愛媛大学に対し、感謝状が贈られたものです。

「わくわくチャレンジサタデー」の取り組みは、次年度以降も継続して行われます。

学部同窓生の浜田純子氏が講義

「魅力的な大人のマナー講座」

平成二十二年五月十三日（木）に、教育学部大講義室で、(株)グロウスリッシュ代表取締役の浜田純子氏（昭五六卒）をお招きし、「魅力的な大人のマナー講座」が開催されました。



メラビアン法則について説明

この講座は、同窓生を中心に多方面から学生に対する支援をお願いする『教育学部サポーター制度』の取り組みとして昨年度からスタートしました。

今回の講義では、新入社員研修、ビジネスマナー研修、およびセミナーの講師として活躍されている浜田純子氏をお招きし、社会人として必要なマナーについて、具体的事例を交えて幅広く教えていただきました。講義には、一回生から四回生の約百五十名の学生が参加しました。



お辞儀の練習風景

講義は、「マナーの重要性と必要性」についての説明から始まり、身だしなみの三原則やあいさつが自己アピールのチャンスとなること、姿勢はやる気のパロメーターであることなど第一印象の重要性についても教えていただきました。

次に、コミュニケーション能力を高めるためのポイントや、言葉の使い方を学生に実践を交えて答えてもらっていました。また、基本的なマナーとして、エレベーター、応接室、タクシー、乗用車、列車などの席次についても、クイズなどで楽しみながら教えていただきました。

最後に、必要なのは、「形だけのマナー」ではなく、「心あつて

のマナー」であること、現場で遭遇するそれぞれの状況に応じて、機転をきかせて臨機応変に対応できてこそ本物であること、自分の個性を生かしたマナーが大切であることのアドバイスがありました。

参加した学生たちは、アンケートで、「今までマナーを誤解していた」「こういう身近に役立つ講義はありがたい」「今後自分の人生に役立てたい」との感想を寄せており、マナーの重要性について多くの事が学べた講義になりました。

詳しい講義内容は会報第一一一号で紹介いたします。

次回は、七月一日（木）に、旅する世界遺産研究家、ギヤスター、アナウンサーとして活躍されている久保美智代氏をお招きして「魅力的な世界遺産を学ぶ旅講座」（仮称）を開催する予定です。

知っておくと得する！

魅力的な大人のマナー講座

日時：平成22年5月13日（木）13:00～15:00
場所：愛媛大学教育学部大講義室
講師：株式会社グロウスリッシュ 浜田純子

文芸



川柳

私の川柳履歴書

東澤 孝(紳介)

(昭二九卒)

昭和三十三年から六年間新聞投句
本当のことを言わせて親は泣き
昭和三十六年「紙川柳会」創立に
参加。現在「四国中央川柳会」
逆境にやさしい母の底力
昭和三十七年小説新潮に投句。七
年間。

台風も地方版では慈雨となり
昭和四〇年「赤星川柳会」創立に
参加。平成二年より編集担当。
風雪に耐えて野の花凜と咲き
昭和五十五年「小説宝石」に投句。
約十五年間。

てのひらで居眠りしてる青い鳥
昭和五十六年「川之江川柳会」創
立に参加(四国中央川柳会)と合
併

虹
平成二年「豊岡川柳会」に参加。(四
国中央川柳会)と合併。

片隅に咲いた花にもある誇り
平成八年町文化協会の川柳教室の
担任。「遊ユー川柳会」三年間。

故郷の海は詩人にくれる
平成一〇年「囲碁雑誌」に囲碁川
柳投句。現在に至る。
盤上に夢を並べて老いの春

以上

近詠

ピリオドを打って序章から飛躍
人生はあまくなかった日向ほこ
神様のサービス青い青い空
青い雨あなただけになれますか
新世紀中間色はみな捨てる
いいドラマだった感動ありがとう
落ち切ったふと淋しい砂時計
一呼吸おけばやさしい風になる
薔薇咲いてさいて一つの物語
鳩時計いつも幸せそうに鳴き
春夏秋冬雲は詩人にくれる
後期高齢生きる辛さと幸せと

(☎)
799-0724

四国中央市土居町蕪崎

九〇二一二

絵手紙

楽しく描く



山上 巨子

(昭二五卒)

親しい友から絵手紙が届くたび
に、ハガキに書かれた心がこもつ
た絵と裏面の文を見て感動し、私
も絵手紙を描いてみたいなあーと
関心があつたが、なかなかチャン
スがなかった。

ある日、同級生の村上トモ子さ
んが、「三越の絵手紙教室に行っ
ているのよ。一緒に行こうよ。」
と勧められて、気軽に習うことにな
った。丁度、主人が水墨画を書
いているので、顔彩・青墨・筆・
梅皿・筆洗などの道具を借用して、
三越絵手紙教室に参加した。

先ず、筆の持ち方、線を描くレッ
スン、顔彩で色付けする方法を学
び、ハガキの上に下書きなしの一
回勝負で描いていく。どれも、な
かなかむずかしい。

二年余り習った後、今はすべて
自己流で思いつくまま絵手紙を書
き、短い文を添えてポストに投函。
絵手紙は「上手に描こう」と思
わず「下手でもよい。心をこめて
書いて相手に喜んでもらえたらよ
い。」(絵手紙はコミュニケーション
の手段。)と指導者より聞いて、
すっかり安心して下手な絵を楽し
んでいる。

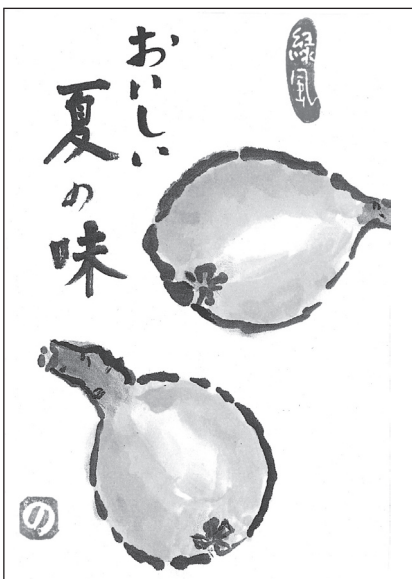
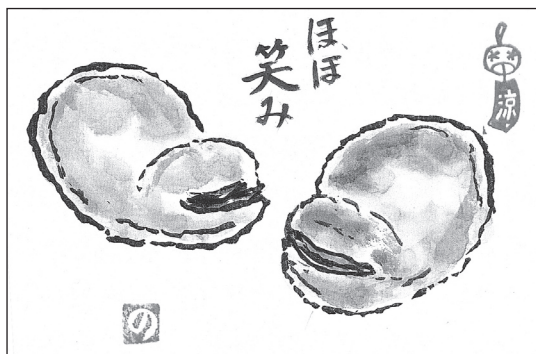
四季折々の草花・野菜・果物な
ど日常生活の暮しの中に教材があ
る。また、自宅近くの道後公園へ
出かけた時、土手や道端に季節を
感じる花や木の実があると、細か
く観察・スケッチをして絵にする。
久し振りに再会した友人が「絵手
紙をありがとう」とお礼をいわれ
ると、うれしい。

今後でも下手な絵・文を書き、元
気で楽しいライフワークにしたい
と思っている。

(☎)
790-0853

松山市上市

二四一五



俳句

俳句研究会に参加して

守谷 和之

(四回生)

愛大俳句研究会は現在五名(男二名、女三名、内一名留学中(四月現在))で活動をしています。主な活動内容は、月に二回の句会を行っている他、個別に社会人の方々の句会に参加、道後・砥部動物園、内子・大洲など愛媛県各地での吟行、年に一・二度、九州などへの俳句合宿などを行っています。

また毎年愛媛県松山市で開催されている、俳句甲子園(全国の高校生による俳句大会)に運営スタッフとして参加、俳句のイベント、大会への参加、ラジオの俳句番組・新聞俳句欄への投稿などを積極的に行っています。

さらに昨年度は、愛媛NHKプラネット製作「燃えろ!五・七・五学生俳句チャンピオン決定戦二〇一〇」(優勝)、愛媛新聞掲載「第一回ハタダ帰省俳句大賞」、丹波市教育委員

会による「第九回田捨女青春俳句祭」に参加したり、NHK「BS2俳句王国」に二週出演したりしました。

これらの俳句研究会の活動で作った俳句は、以下のような物です。

さくらさくら誕生年のワインかな
地ビールと言われて泡のうまさかな

帰省して方言(ことば)一つになる家族

組板に水蜜桃の余香かな
人妻の肩甲骨の夜涼かな

名も知らぬ無声映画の晩夏光
バイク乗る男の多き秋日和

坂道を駆け抜け蜜柑また蜜柑
湯豆腐のことと海へ行く切符

最近では、卒業生を送り出す「追出しコンパ」を開き、卒業生一人一人に向けた俳句を後輩がプレゼントしました。

愛大俳句研究会の今後の課題は、この会の存続に向けての新人部員獲得です。しかし、少ない人数ながら言いたいことを言い合っ

て絆を深めています。
実際に私は俳句を始めてまだ一年足らずですが、俳句研究会の活動だけで既に百五十句以上作って

いました。読書が苦手で、日記もほとんど書かない私ですが、作った俳句を読めば次々と自分の思

い出がよみがえります。俳句を通じて知り合った友とのご縁、句会

という名の匿名性と平等性を持ったコミュニケーション向上の練習

場、全てにおいて今の自分自身の大切な居場所になっています。以下は私の俳句です。

遍路しか通らぬ道となりけり
泡風呂に任せたる身と春愁と

闘牛の揺らす尻尾の白髪かな
地震轟くや一面の馬拾貝

お土産と相談背負い初帰省
紅葉且つ散る堀端の捨てタバコ

新蕎麦や打ち続けてはやまぬ波
冬空に黒の革靴しなりけり

納豆やうわべだらけの人付き合い
掌の厚き牧師のマントかな



短歌

崖の百合

平井 直子

(昭二五卒)

夫の果てし桜三里の崖の百合盆の
わが家の庭にあふるる

道の辺にあふれ咲く花きわまりて
淋しきけふの心を救ふ

亡き夫と写生帳持ちて歩みたる川
土堤の芒さやさと鳴る

微笑めばほほえみ返し悲しめばか
すかに歪む夫の遺影は

ただ一度生まれこしなり残生を人
恨むなく逝かしたまへ

土深く核廃棄物封じ込め青き地球
は宙をただよふ

六十五年九条によりて保ちこし平
和ならずやはやまる勿れ

戦さなき六十五年有難し飢うるこ
となく花育てをり

哀愁を帯びたるカザルスの鳥の歌
夜空に流れ聖火は消えぬ

チェロにきくバツハのアリア早天
の慈雨のごとくに心潤す

夫の遺影肌身に持ちてルーブルの
モナリザの前に長く佇む

亡き夫もエジプトのファラオも甦
れ月はカルナックの神殿照らす
三津浜の渚に友とおくりたる真紅

の夕日眼裏にあり

私は愛師を昭和二十五年に卒業いたしました。入学は三津浜の校舎・寮生活でした。清風寮一号室がなつかしいです。途中から城北の練兵場跡の校舎に移り三津浜から通学いたしました。音楽を安城先生に教えていただきました。

ピアノが好きでしたが数が少ないため思うように練習できませんでした。みんなで練兵場跡の芝生に坐りこみ、あれこれと未来を語りました。

六十年は矢の如く過ぎとうとう傘寿になりました。届けて下さる「同窓会報」を楽しく読まさせていただきます。私の夫は二十二年卒です。二十八年前、桜三里から旅立ってしまいましたが、会報には二十二年卒の方の記事が必ずどこかに載っていますので、つい読んでしまいます。

796-0704

四国中央市土居町

津根一八五〇



俳 画

「カタクリ」と「寒アヤメ」

山口 恭子

(昭四八卒)

俳画を習い始めて、はや四年。退職し、専業主婦の日々の何と忙しきことか。そんな中、月一回の教室は、描くことに没頭できる場であり、心安らぐ場でもある。なかなか上達しないが、先生は、必ずいい所を見つけて誉めて下さる。誉められることは、いくつになってもうれしい。真っ白い紙に筆を走らせる緊張感が楽しい。

四季折々の花鳥風月に寄せて、日々の小さな感動を描く喜びを、これからも味わいたい。



還暦の厄払いに寺参りへ。寒風の中、小さいが存在感のある「寒あやめ」に立ち止まる。



岡山県佐引市の山中で、初めて見た「カタクリ」の群生の可憐さに感動。

ホームカミングデイ実施内容

- 主 催：愛媛大学・愛媛大学校友会
 協 力：愛媛大学各学部同窓会
 実施日時：平成22年11月12日（金）、13（土）
 ※ 学生祭 11/12～11/15
- 11月12日（金）
 午後
 ○ 就職相談会……場所：理学部（卒業生〈企業派遣〉による就職相談）
- 11月13日（土）
 17：00 まで
 ○ 各学部の企画、ミュージアム案内、大学祭参加、各種催し物（企画中）
 17：00～
 ○ 第1回開催記念式典……会場：南加記念ホール
 ・学長挨拶（大学の現状説明）
 校友会会長挨拶
 学生・卒業生挨拶
 ○ 懇談会・懇親会……会場：大学会館（予定）

問い合わせ先： 愛媛大学経営企画部総務課総務チーム
 TEL：089-927-8610、9013

ホームカミングデイのお知らせ

愛媛大学・愛媛大学校友会では、平成十九年度以降の卒業生に対し、ホームカミングデイを実施することを約束してきました。

ホームカミングデイでは、参加者相互の親睦を図ると共に、大学側からは、大学の最近の動向などの情報提供、転職・再就職等に関する就職支援サービスを実施する予定です。また、卒業生からは在学生の就職活動支援を願うなど、大学と卒業生の双方向的な連携・支援を目指しています。

今年度はその第一回として、十一月の学生祭時に以下の要領で実施します。詳細については現在検討中であり、後日、校友会ホームページ（下記）に掲載する予定です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。（<http://koyu.ehime-u.jp/>）



林傳次先生遺稿集

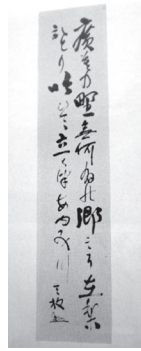
「把翠」を繙く

広莫の野無何有の郷ここに在り

ひとり吟ひて立ちつあゆみつ

天放

今、わたしの新居の床の間にかけてあるのが、左の一軸である。



天放とは山路一遊先生、この歌は、先生がご退官後、持田の新居（旧松山高등학교運動場の東北）に移

られ、悠々自適の毎日を過ごされた頃の心境を詠まれたもの、昨年三月末、昭和三十三年三月、四十二年の公生活から解放され、六月新居に移った私には、これからの私の生き方を指し示してくださるものと思われるので、新居の壁の上塗りが乾くのをまちかねて、かけたのがこの一軸である。

私が愛媛県師範学校に赴任したのが大正五年三月末、山路先生が愛媛師範学校校長になられたのが大正二年だから、その四年目にあ



たるわけである。それから大正十二年三月御退官まではもちろんのこと、昭和七年八月御逝去の時まで、実に十七年の長きにわたって、鑄化薫陶をうけたのである。

教育者としての心構え、公人としての生き方、その他人生百般について、あるいは明らかに、あるいは隠約の間に論され教えられたことは、数限りもなく多い。

今までも、「右すべきか左すべきか」自分で決しかねたときなど、「山路先生ならこの場合どうなさったであろう」と考えなおすことによって、心のきまつたことも一再ではない。山路先生は私にとってまさに人生の師とも申すべき方であって、長からぬ人の世にあって、人生の師として終生仰ぐべき方にめぐりあうことのできたのは、私の至幸至福といわなければならない。

○ ○

昭和二十六年、胸部に異変ありと宣言されて二ヶ年の静養、しかもそのうち約半年は仰臥のままの絶対安静の毎日を送らねばならなかったとは、無聊をまぎらすために思いついたのが、頭の中で順々に自叙伝をつづることであった。六十年の過去は思ひ出すこと

があまりにも多く、平素は心に浮かぶこともなかった事まで次々に思い出され、まことに愉しいことであつた。思い出を辿るうちに、先師や友人から与えられた恩顧がいかに多いかということ、わけても山路先生から受けた薫化が、その後の私の人生行路の上に与えた比重のいかに大きいかということに、今更のように驚きもし、またありがたくかたじけなく思つたのであつた。昨年三月退職、独りで清閑の日々を送っていると、やはり山路先生のこと何かにつけて思い出される。そういう思い出を、書きつらねて、山路先生を知っている方には先生を思い出すすがにしていたとき、山路先生のお名前だけを知っているにすぎない若い人々には、せめて先生の一面だけでも想像していただきたい。そう考へてこの筆をとることにしたのである。

○ ○

いうまでもなく、山路先生のお言葉や行動を、私がどう感じ、どのように受けとめ、またそれをどのように自分の中に生かそうとしてきたかを書き綴ろうとするに過ぎないので、山路先生の客観的な伝記などというものではもちろんない。

山路先生は議論を好まれたが、序論本論結論という風に理路整然と説き来たるという方ではなく、単刀直入、ずばりと結論を簡潔なことで吐かれるという方であつた。大正五、六年の交、松山農学校の校長であつた尾見五郎氏が

「山路さんは結論だけをいう。僕はその前をいう」とある時評されたことを記憶しているが、まさにその通り、したがって、どうしてもそのような意見をのべられたかは明かでなく、只われわれがこうでもあると想像するだけで、それが先生の真意にあつてゐるか否かはもとより不明である。また「群盲象を撫づ」という言葉のあるように、私ごとき凡愚のものには、到底先生の真骨頂を知り得る筈はないので、以下書きしるすことは、あくまで私の心に先生の言行がどうひびいたかということにとどまる。山路先生の真の面目を描き出すなどという野望は毛頭もつていない。どこまでも先生の言動から何を教えられ、何を学んだかを書きつらねるに過ぎない。読まれる方々に予め御承知をお願いしておく。

【註】

「広莫の野無何有」とは、莊子にある説で、「無何有の郷」は無為自然の境地をさす。

万葉卷十六（三八五一）には「心をし無何有の郷に置きてあらば貌姑射の山を見まく近けむ」ともある。

先生が歌を詠まれるということとは、長年お側にいながら、この軸をいただくまで知らなかつた。しかしこの外に先生の歌は見当たらないから、或いはこれが唯一のものであるかも知れない。

先生は漢学を特に学ばれた方

ではないが、御逝去後先生の机辺を整理した際、愛誦の句を書きつらねられたと思われる長さ六尺あまりの巻紙があつた。それには四書・五經・老子・莊子などから短い章句が抜き出されてあつた。幼少の頃に素読で学ばれたものを、老後になつて思い出すままに書きとめられたものではないかと思う。ここらに当時の士籍にあつた人々の教養の俚ばれるものがある。

（林傳次先生遺稿集「把翠」より）

※次号から、林傳次先生が人生の師と仰ぐ山路一遊先生の思いを書きしるされたことばを掲載します。

（編集子）

祝・叙勲

（平成二十二年四月二十九日）

☆瑞宝双光章

教育功勞

宮内 正芳 殿

松山市東石井四一四一二六

昭三十七年卒

教育功勞

大野 良作 殿

松山市立花四一七一四六

昭三十八年卒

教育功勞

吉住 智皓 殿

今治市高橋甲三五八一

昭三十九年卒

今、教育に思うこと

明治・大正の頃のエデュケーション事情(一)



上 申 修
(昭二九卒)

中村熊治郎先生は、少年時代の回想で「明治二十一年、満六歳の私は二つ三つ年上の人と一緒に入学したので大勢の学級になった。」と語っておられる。なぜ年上の人と一緒に入学したのか。その辺の事情と明治時代の小学校の状況、そして明治のころ卒業された方々の回想記、それと明治九年から多くの教員を養成した愛媛師範学校の沿革等について始めに記しておきます。

明治新政府は三つの制度改革、すなわち学校制度・徴兵制度・租税制度の改革を強力におし進めた。

明治五年学制が公布され政府は「必ス邑(村)ニ不学ノ戸(家)ナク 家ニ不学ノ人ナカラシメン事ヲ期ス」と崇高な理念を掲げ、国民皆学への道を開いた。

しかし当時、全国の多くの村では財政難から小学校をつくる余裕はなく、明治五年から八年にかけて古い民家、寺院、神社等を学校として発足した。だが一般大衆は、政府の考えとは裏腹に、教育に關する意識が極めて低く、地方では明治二十年代まで学校へ行く子供は少なかったという。特に女の子には教育など不要という考えがあつて、女子の就学率はとても低かつた。愛媛県史の明治初年創立小学校一覧によると学校別生徒数の覽に男の数が十、二十とあるのに女の数はゼロ、ゼロとなつてゐる。ゼロでないところでは一桁の数が多し。また進学した子供でも授業料を納めなくてはならないので、中途退学は珍しくなかつた。

それが明治二十年代に入り、徐々に教育の重要性が一般の人にも認識され始め、明治政府は小学校教育を義務教育とし終業年限を四年とした。そのような社会情勢の中で、ようやく多くの村に小学校が建てられるようになり、それ

を契機に就学率も上がつてきた。しかし義務教育と言いつながら罰則規定はなく、明治三十年代に入つても貧困家庭の子供の中には学校に行けない子がいた。就学率が百パーセント近くになつたのは明治の終わりごろと言われる。明治四十一年からは義務教育が六年になる。

松山市の旧中島町に津和地という戸数三〇〇ほどの島がある。江戸時代、ここは瀬戸内海通航の要路で松山藩唯一の公儀接待所が置かれていた。

津和地は明治二十二年までは津和地村で、平成元年に出版された神和三島誌(神和村の三つの島の記録書)の中に津和地村の明治時代における学校教育について次のように書かれてゐる。

義務教育の始まり

『……子女の教育は明治新政府の学制令によるもので、明治六年より始まつた。津和地村では洞源寺の住職を教師としてお寺の本堂において始められた。

当初は修業年限も一、二年の短期間で、学習科目は読み書きだけであつた。明治二〇年に校名も津和地簡易小学校と改められ、修業

年限は三年となつた。校舎は明治十二年、村の中央にあつたお茶屋跡へ平屋建て一棟(四間×五間)を新築したのが最初である。児童の就学状況は左記の通りである。

年 次	男	女	計	就学率
明治 6 年	47	4	51	不詳
明治 20 年	64	18	82	41%
明治 26 年	57	24	81	40%

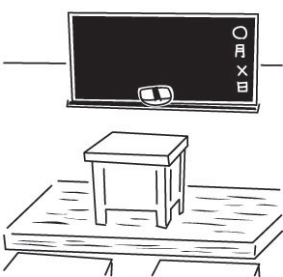
また、これとは別に津和地小学校の沿革誌により児童の就学数と卒業者数を見ると次のように出てゐる。

下の表は修業年限四年の義務制になつた以後のものである。せっかく入学したものの半途退学者の多いのに驚く。特に女子にあつては、五年間を通じて卒業者は六名である。こうした惨めな結果の原因はどこにあつたのであろうか。その一つは父兄の教育に対する認識不足かもしれない。また、もう一つは生活に追われ子供の手まで

年 次	在籍児童		入学者		半途退学者		卒業者	
	男	女	男	女	男	女	男	女
明治 22 年	53	20	8	8	11	5	5	0
明治 23 年	59	34	10	4	7	20	13	2
明治 24 年	53	28	14	1	1	4	9	3
明治 25 年	61	26	15	5	7	7	0	0
明治 26 年	57	24	12	3	5	3	2	1

借りなければならなかつた貧しさにあつたとも考えられる。……』

明治二六年、当時の文部省は女子の就学率があまりに低いので小学校の教科に裁縫を設けて女子の就学を促した。不就学児童が多いのは、全国的な傾向だつた。



浅海蘇山と三輪田米山

小野植元幸
(昭二九卒)

昭和二十七年在学中、県書道連盟会長だった蘇山先生に教えていただいた。

講義の中で米山の生い立ち、書に纏つた話を紹介。鷹子町白尾神社神官の家に出生。国学者野々口隆正に入門。明治四十五年一歳十月、松山県より神官に任じられ、明治四十一年十一月三日死没八十八歳、当時としては長寿だった。

米山は、伊予三筆と頌され僧明月、僧懶翁、米山と讃えられ、先生の話では、酒が好きで飲みながら書き、書いては飲み体全体でエネルギーギッシュを紙面にぶつつけた。

作品は、豪放磊落で伊予一円にある神社の注連石等の揮毫はおびただしく残っている。

蘇山先生は「古典にとらわれない無礙の底に、鍛錬と知性の輝きを秘めるにつくる。」と評し、何回となく豪放磊落にして気宇壮大・雄渾にして天衣無縫、何物に

も捉われない破格の書体と語られた。

米山は、中国の書聖「王羲之」の間書の研究を続け、独自の書法を確立。蘇山先生も酒が好きで米山の研究に没頭し、飲みながら書いたり、書いては飲んでいると話されていたのを思い出した。

一昨年、椿神社での「米山没後百年展」が開催されたが、見る機会をのがして残念に思っていたところ、昨年内子町で「三輪田米山と内子の先哲遺墨展」があり鑑賞。

内子町文化財保護委員会(愛媛師範OB)大村博氏他の委員、関係者の献身的な努力により、米山の作品七点「有終」「好古」「人心之不同如其為」「仁義」「思無邪」「思義」「孚佑」。これらの作品は、旧小田町の神社仏閣、逗留地に、扁額・掛軸より集められていた。紙は、明治初期、当地方の特産大洲半紙を使用。旧内子町には、米山の作品が確認されず、小田町との交流があったものとうかがえる。鑑賞の折、米山の子孫の三輪田綱丸氏もおられ嬉しかった。

米山展に併せて、内子の先哲遺墨九人の作品を鑑賞することもできた。

昨年十月二十九日から、毎週木曜日より七週にわたり「米山没後

百年展」(椿神社において開催)で、米山研究の教育学部教授三浦和尚先生の手記が地方新聞に掲載され、学生の時の、蘇山先生が熱っぽく語られ、三浦先生が米山研究に熱中されていることを知った。

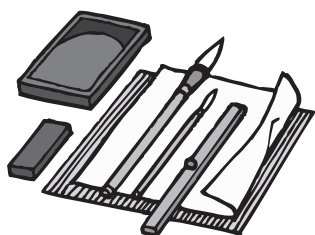
元愛大教授菊川國夫先生を「米山の師」として、三浦和尚教授が継承し、愛媛の先哲を研究し、次代へと努力されていることに敬服している。蘇山先生も、黄泉の世界で喜んでおられるでしょう。

米山の日記を、昭和四十年代ごろ、米山研究をされた蘇山先生が収集。愛大で二百二冊電子化しているという。同大教授福田安典教授も「米山日記」は、愛媛の宝と絶賛されている。愛媛の文化を次代へ伝えられていることはすばらしく感銘を受けたと同時に、学生時代の蘇山先生を偲んだ。

(☎ 791-3351)

喜多郡内子町五百木

一五四



放送大学十月入学生募集のお知らせ

放送大学では、平成二十二年十月入学生を募集中です。

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では、心理学・福祉・文学など、幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々は、次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

○ 放送大学の大学院を利用して、専修免許状の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、司書教諭資格の取得が

可能です。

○ 放送大学の講習を受講して、教員免許更新が可能です。

資料を無料でさし上げておきます。お気軽に、愛媛県学習センターにご請求下さい。

放送大学

知識が人生を変えていく

一科目からでも学べます

平成22年度10月入学生募集中！
(平成22年8月31日まで)



愛媛学習センター
(愛媛大学内)

TEL 089-923-8544

同期会

愛媛二十二年卒 第37回関東同期会



武田 敏文
(昭三三卒)

水野允陽さんから「この会は何回になるのだろうか。」と尋ねられたので、古い手帳や案内状の綴りで調べてみると、昭和三十三年に始めて今年で三十七回になっていました。

始めの頃は、愛媛師範の学年担任だった野村正三郎先生が二科展出品で上京された機会に「先生を囲む会」としてスタートしました。

第七回の昭和三十九年八月三十一日には酒井康弘さんも二科展に出品するようになり、前夜祭に参加した興奮さめやらぬ顔で出席してくれた様子が印象に残っています。当日は石水修二・井上明吉・井原茂幸・近藤功・高橋立身・谷口敬・土居孝夫・藤本正義・水野允陽のみなさんと僕が出席し彼の活躍を祝福しました。

第十四回は昭和四十九年十一月

十五日、野村先生が叙勲をされたお祝いに、奥様と御一緒に囲む会を地下鉄茗荷谷駅近くの茗溪会館で行いました。この時から徳田實三郎さんが加わりました。

第十八回は昭和五十三年八月三十日、新宿区四谷駅前「佳園」で、「野村先生を囲む会」をしました。この時から玉田泰太郎さんが加わりました。

第二十回は、昭和五十五年四月二十七日池袋西北口の「薊」で井上明吉さんが愛媛へ帰る送別会をしました。

第二十三回は、昭和六十三年九月十七日に土居さんの世話により銀座のキャバレーの「くるみ」で行いました。

第二十八回の平成十四年六月八日には神田神保町の「なにわ」で、創造展準会員推挙表彰式に上京して来た石丸保さんを囲む会をしました。以後石丸さんは次々と入賞しました。

さて、平成二十一年十二月十四日の第三十七回関東同期会は、連続八回目の東上野の「鮒忠」で行われました。

井原茂幸さんは長らく東京湾を越えた房総半島の南端の井原陶房で気がねなく制作に励んで、都立美術館や府中市立美術館に傑作を出品していましたが、体調が心配になり引き上げてきました。

高橋立身さんは、お母さんが百二歳でなくなりました。その話を聞いて、しばらくみんなの老後のことで話の花が咲きました。その間、鍋の料理は藤本正義さんがやってくれました。彼は家でもしていると見えてその手際は見事でした。

アルコールが程よく回ったところで、「今でもオーケストラの団員の一人でも音が違っていると聞き分けられる。」と言って、韓国への演奏旅行に行っている水野允陽さんの話が続きしました。

後日、関東愛媛県人会報新年号に、谷口敬さんが平成二十一年秋の叙勲で瑞宝双光章を受けたことが紹介されました。

(☎) 331-0063
さいたま市西区
プラザ八一四



「愛媛大学 文化講演会(仮称)」のご案内

講師

愛媛大学教育学部 中等国語科

昭和三十九年卒 大阪大学名誉教授 文学博士 伊井 春樹氏

昭和四十年卒 作家・山頭火・中原中也研究家 村上 護氏

日時 平成二十二年十一月二十三日 日(火)〈勤労感謝の日〉

10:00開会 15:30閉会

場所 愛媛大学 南加記念講堂

(旧愛媛大学講堂)〈収容人数二百五十名〉

日程 10:00 開会式

10:20 講師 伊井 春樹氏紹介

10:30 伊井 春樹氏講演

12:00 質疑応答等

12:20 昼食

13:20 講師 村上 護氏紹介

13:30 村上 護氏講演

15:00 質疑応答等

15:20 閉会式

講師プロフィール

伊井 春樹氏

愛媛県生まれ。昭和三十九年愛媛大学教育学部中等国語科卒。広島大学大学院博士課程終了。大阪大学名誉教授。古典文学研究の第一人者として活躍されている。専門書

の他に、広く一般向けの著書を執筆するなど、日本文学の普及に尽力されており、外国の研究者と共に「国際化の中の日本文学研究」などを著作している。著書に「世界が読み解く日本―海外における日本文学の先駆たち」などがある。毎週土曜日午後五時からNHK教育放送で女優の加賀美幸子さんと共に古典講読をされている。

村上 護氏

愛媛県生まれ。昭和四十年愛媛大学教育学部中等国語科卒。二十六歳から東京に在住。数種の職を経ながら執筆活動に入る。一九七二年に評伝「放浪の俳人山頭火」でデビューした後、「明治俳句短冊集成」(全三幕)「筆墨俳句歳時記」(全四巻)の編者をつとめ、著書「放哉評伝」など、四十数編ある。毎日一句を評する俳句コラムを十二年間、地方紙で執筆しており、現在も愛媛新聞をはじめ十四紙で連載中である。

◎問い合わせ

〒七九〇一八五七七

松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

TEL〇八九一九二七一九三八三

少し長い表紙のことは

愛媛大学と三輪田米山



菊川 ときまさ
(昭三三卒)

平成二十年十二月五日から十二月十四日まで、「米山日記の世界」と題して「愛媛大学図書館企画展」が開催されたことを御記憶の方も多いことであろう。

三輪田米山（みわだべいざん）は、一八二一（文政四）年、伊予松山の日尾八幡神社三輪田清敏の長男として生まれ、家職を継ぎ、一九〇八（明治四一）年に八十八歳で没した、伊予の神官である。

米山は、王羲之を始めとする書の古名跡を独学で探究し、独自の書風を確立した。中央の伝統書に影響されることなく、また毒されることもなく、自分の眼を唯一の頼りとして古法帖を涉獵し、臨書に没頭し、学書の本道を追究して



浅海蘇山先生 昭和 63 年 77 歳

多くの秀れた書作品を残して、没後百年にして注目を浴びている書人である。

近年、迫力ある米山の書を称揚する人多く、全国各地で展覧会も開かれ、書の専門誌『墨』（194号二〇〇八年）で、「二十世紀の書家五十人」の一人に選ばれ、愛媛県美術館所蔵米山畢生の傑作「福祿寿」が代表作として紹介されている。中央の専門誌に二十世紀を代表する書家五十人の中の一人として選拔され、平成の時代によくやく米山の書が美術界に認知されたということになるうか。

ところで、わが愛媛大学に米山の書として二曲屏風が三点所蔵されており、その内の一点が今回回報の表紙として使用した「鳥啼山客猶眠」である。この作は他の二点と共に、平成二十年の企画展にも図書館の特設会場に展示された。その時の資料の解説を引用する。

原典は、王維の「田園楽」。

【原文】

桃紅復含宿雨、柳緑更帶春烟。花落家僮未掃、鶯啼山客猶眠。

【訓読】

桃は紅（くれない）にして、また宿雨を含み、柳は緑（みどり）にしてさらに春煙を帯（お）ぶ。花落ちて家僮（かどう）いまだ掃（は）らず、鶯鳴いて山客なお眠る

【口語訳】

桃の花はくれないに咲き、ゆうべの雨をふくんでいつそうあざやか

な色を見せ、柳の芽は萌えいで、春の霞を帯びてけだるい風情である。花びらが散っていても、召し使いはいまだ掃除もしない。鶯がしきりにさえずっているのに、隠者先生はまだ夢うつつ。

【書風等】

年代は、不明であるが、米山作品中の傑作である。骨太の草書で書かれ、王羲之風の書風がはつきり表れている。

簡にして要を得た、そして的確な解説である。原詩の鶯が鳥になっっているのは、米山の勘違いか、憶え違いで書いたものであろう。

所で、この屏風を大学の所蔵とするに当たっては、私がいささか関与したところがあるので記しておきたい。

平成七年か八年のいつだったか、嘗て小松高校で同僚だった東温市牛渕の八木麗子先生から電話があり、米山の作品を見てほしいとのこと、研究室までお越しいただき一点米山の小品の秀作を見せていただいた。その折、八木先生宅にぼろぼろになった二曲屏風が一点あり、もしよろしければ私に贈呈したいとのことであった。

後日運んでもらって拝見すると、その痛みようはひどかったが、作品に米山独特の迫力があり、そうして品格もあり、修理修復も可能と思った。作品は大作でありすばらしい作で、私がいささくわけにはいかないで、その取り扱い

はまかせていただくことにした。

私は昭和二十九年教育学部入学、専門課程の卒業研究の指導教官は米山研究の第一人者、浅海蘇山先生であった。蘇山先生は積年の米山研究の成果を、大著「米山人と書」として昭和四十四年八月墨美社より発刊、ここに米山は近代日本を代表する書人として一躍脚光を浴びることになった。

蘇山先生の研究は、松山を中心に諸家に伝来する軸や屏風等の書跡神社の注連石（しめいし）や墓碑等の石文、米山が家職を継ぎ日尾八幡宮に残した三百冊に及ぶといわれた、いわゆる「米山日記」の三つを対象としており、特に三輪田家に伝来する日記の解説、記録、整理によつて書人米山の全貌を明らかにしたことであった。先生が米山日記の解説筆写の作業を始めた時には、第二次大戦という混乱期を経ていることもあって、散逸したものもあり、この貴重な遺産の今後の伝承について先生は真剣に考えられた。

そうして先生はこの日記を国の貴重な財産として愛媛大学が収蔵し、爾後幕末、維新後の記録として研究すべきであると考えられた。このことは三輪田家の深い御理解と御高配によつて実現することとなった。

なおこの間の詳細な経緯については、平成二十年米山没後百年を記念して開催された「米山日記の世界」シンポジウムで私が発表

させていただいたので省略させていただきます。

蘇山先生はその他米山の作品も大学の財産として収蔵すべきだとお考えになられて、米山の名作屏風二点が市場に出た時に購入の手続きをされた。

一点は中国の先哲の語を二文書いたもの。二点共落款に「米山醉筆」とあるが、骨格のしつかりした漢字行草体の作品である。

もう一点は「万葉集」の歌を書いた二点を屏風にしたもの、米山のかなの代表作と私は考えている。

そうしてもう一点が今回の表紙に使ったものである。結果として私が大学を退官するに際し、八木麗子氏旧蔵「米山書二曲屏風」菊川國夫贈とさせていただいた。

なお修復修理は大学の方でしていただいた。米山の代表作のこの屏風が、蘇山先生の御配慮による二点と共に本学に収蔵品となったのである。

所で本学所蔵の米山日記は二〇二冊、その全てを図書館のWeb版で開学六十周年記念として公開している。

また新設の愛大ミュージアムで、九月一日より日記を中心に米山展をやる計画もしている。

今後はこの米山日記と米山屏風書は、県及び国の重要文化財として登録すべきと考えて、米山顕彰会と協力して準備をして行きたいと思っている。

学内トピックス

「愛媛大学ミュージアム」を

見学してみませんか

「地域にあつて輝く大学」を目指す愛媛大学に、その理念を象徴する新しい施設「愛媛大学ミュージアム」が誕生しました。

愛媛大学では、「見る」だけではなく、「ふれる」「感じる」「発見する」をテーマに、見て、さわって、もつと知ろう！の合い言葉のもと、二〇〇九年十一月十四日に一般公開を開始しました。

愛媛大学内で最も古い建物である、旧共通教育管理棟を改築した空間には、大学創立から現在にかけて様々な分野で行われてきた研究活動の過程で収集された資料や成果を常設展示しています。

学生や研究者だけではなく、広く一般の方々にも、輝かしい愛媛大学学術研究の成果を理解していただくことを目的としています。

館内では、

「進化する宇宙と地球」

「愛媛大学と愛媛の歴史」

「生命の多様性」

「人間の営み」

の四つの大きなテーマ別のゾーン展示を行っており、子どもから大人まで、楽しみながら知的好奇心を刺激する仕掛けが随所にちりばめられています。

また、企画展示を開催したり、ミュージアムガーデンやミューズカフェなどくつろぎのスペース施設を設けたりと、リピート来館を促す工夫も施されています。

ちなみに、最近の企画展示としては、

「アロサウルスがやってくる！

～恐竜からホ乳類の時代へ～

二〇一〇年五月二十九日（土）

～七月二十六日（月）

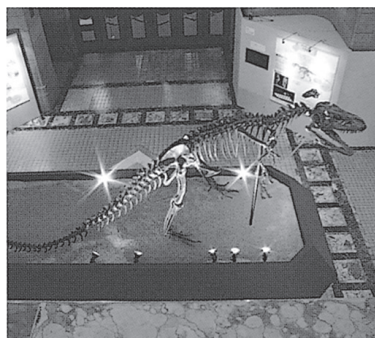
「二〇一〇昆虫展 ～夏休みの自由研究はムシたちにおまかせ？～

二〇一〇年八月五日（木）

～十日（火）

があります。

どうか、皆様おさそいあわせてご来館下さいませ。



アロサウルスがやってくる！
～恐竜からホ乳類の時代へ～
2010年5月29日（土）
～7月26日（月）



「人間の営み」コーナー



2010 昆虫展
～夏休みの自由研究はムシたちにおまかせ？～
2010年8月5日（木）
～8月10日（火）



昆虫標本コレクション



アロサウルス（企画展）

教育学部留学生歓迎会を開催

平成二十二年五月七日(金)、愛媛大学校友会館において、教育学部留学生の歓迎会が開催されました。

現在、教育学部には四月に来日された十名を含め二十三名の留学生が在籍しています。

今年度から、留学生と教育学部長、指導教員、留学生チューター、事務職員などが一同に集い交流の場を持つ機会として歓迎会が開催されました。

歓迎会は、校友会館二階のサロンにおいて、十二時十分から立食パーティー形式で行われました。

最初に教育学部長の挨拶があ

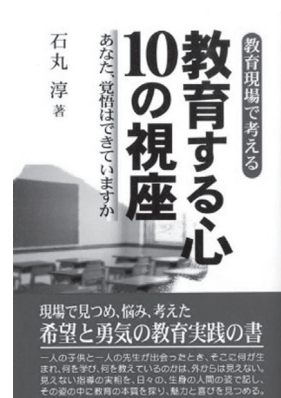


り、四月に来日した留学生がそれぞれ流暢な日本語で自己紹介を行いました。その後、和やかな雰囲気の中、パーティーが行われました。留学生、チューターの皆さん達はお互いに自己紹介をしたり、記念撮影などをして交友を深めていました。

教育学部では、今後も前学期・後学期の学期始めに歓迎会を開催していく予定です。



寄贈図書



「教育する心 10の視座」

—あなた、

覚悟はできていますか—

著者 石丸 淳

発行者 大早 友章

発行所 創風社出版

判型 B6版 三〇二頁

表題、目次に惹かれ自然と頁をめくった。いつの間にか「そうだ、その通り、うん分かる分かる。」とつぶやきながら納得し読み進む自分に気が付いた。著者の体験に基づく具体的な実践事例が語りかける内容には説得力があり納得する。一気呵成に読み終えた。

以前「荒れる学級をつくらない実践的な学級経営」(黎明書房)を上梓し、学級経営に苦勞されている全国の先生方から、さまざまなお言葉をいただいたと著者は語っている。その後、著者が、小中の学校現場や教育委員会等で勤務を続けながら、現場実践の中の思考や体験を前の書物よりは広い「10の視座」でまとめ、現場で苦勞しながら、それでも子供たちが好きで頑張っている先生方への応援歌になればと願い、分かりやすく具体的に述べた書である。

「雨の日の水遣り三題」(一章)

等の子供たちの日常の姿の奥にある真実や最近先生方が苦手としている「叱ること褒めること」(四章)の技術や具体例、「いじめ問題やテストの本質」(五章・八章)など、おもしろく読め、同時にその思考は深く粘り強いものになっている。

保護者との対応に関わる「その中心機能は、学校は父の心、家庭は母の心」(九章)や「荒れる小学生も登場」(十章)「子供って、こんなにおかしくて、魅力いっぱい」(六章)など、全章を通して、著者の人間観の深さや思索の広さ確かさも感得できる。

抽象論でなく具体的に、しかも楽しく読めて、著者の望むように、悩んでいる先生方が、再び教育への夢と希望、それに自信をもって、よし私も明日から頑張ろうと元気の湧く応援歌である。

(編集子)

会報の送料納付について

・平成二十二年二月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。

出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

記

①一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっていきます。

②二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までと

送金方法 郵便為替・現金書留郵便振替で

振替口座番号

〇一六四〇一七二七五四
送り先 七九〇一八五七七

松山市文京町三
愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。

平成22年度

支 部 長 会 報 告

1. 日 時 平成22年 5 月29日（土） 10：00 ～ 14：00

2. 場 所 校友会館（松山市文京町3 愛大構内）2F大会議室

3. 日 程 (1) 開会 あいさつ 会長・学部長
(2) 各支部長あいさつ
(3) 議長選出
(4) 議事

ア 会則改正について

イ 役員改選に関する件

★ 退任役員表彰

★ 新旧役員あいさつ

ウ 平成21年度行事報告

エ 平成21年度決算報告・監査報告

オ 平成22年度行事計画

カ 平成22年度予算案審議

キ 支部活動と助成金について

ク その他事務連絡（内規に関する事項・会報発送・会館利用・名簿等）

(5) 閉会 あいさつ 副会長



4. 主な話し合い事項

(1) 支部活動の活性化について

支部長からの提言を元に支部活動をいかに活性化するかについて、時間をかけて話し合われた。県下のトップを切って、一昨年伊予支部が「はばたけ伊予っ子」の旗印の下伊予支部同窓会主催、会員一人一役で「伊予地区児童生徒の芸能・文化活動」の発表会を開催し、大成功を納めた事例をもとに話し合った。各支部とも積極的な活動を公民館と協力して計画してみてもとの提言があった。

(2) 教育学部と同窓会との連携活動について

教育学部では「サポーター制度」を設け、同窓生に働きかけ、講師になってもらい「コミュニケーション能力の育成」をテーマに、学生達に講演している。非常に学生に好評であり、今後とも学部と同窓会との絆を強めるため同窓会は協力をしようと意志決定した。

(3) 「支部活動特別助成金」について

支部活動をより活性化するための具体的な方策として、上記にある「支部活動特別助成」を配慮している。その為の資料として、「伊予支部活動の資料」「支部活動特別助成金交付要綱」と「申請手続き」を紹介した。

以上

平成 22 年度 行 事 計 画

4. 6 (火)	平成22年度愛媛大学入学式	学部生 238名 院生 50名
4. 14 (水)	平成21年度会計監査	平成22年 4 月14日 (水) 監査実施
5. 8 (土)	第 1 回理事会	平成21年度行事、決算報告 平成22年度行事計画及び予算審議 役員改選案について審議
5. 22 (土)	第 1 回常任理事会	同窓会活動・支部活動について
5. 29 (土)	支部長会	平成22年度本部役員改選 平成21年度行事、決算報告 平成22年度行事計画及び予算審議
6. 15 (火)	第 1 回編集委員会	会報110号 校正
7. 1 (木)	会報110号発行	9,100部
8. 1 (日)	第 2 回理事会	同窓会懇親会 後期活動について
8. 21 (土)	第12回同窓会懇親会	第12回同窓会懇親会 (於 エスポワール愛媛文教会館)
8. 28 (土)	第 2 回常任理事会	同窓会懇親会の反省 後期の諸計画について
1. 7 (金)	第 3 回理事会	年間行事の反省 新年度諸計画について
1. 12 (火)	第 2 回編集委員会	会報111号 校正
2. 1 (火)	会報111号発行	9,200部
2. 19 (土)	第 3 回常任理事会	22年度行事活動反省、次年度重点活動目標設定について
3. 24 (水)	平成22年度卒業式	

平成21年度 決 算 書

平成22年度 予 算 書

(収入の部)

△…減

費 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
1. 会 費	0	0	0	
2. 終身会費	5,000,000	5,000,000	0	入学者232名+18名
3. 雑 収 入	200,000	193,051	△ 6,949	利息、送料・寄付金等
4. 繰 越 金	2,671,843	2,671,843	0	
計	7,871,843	7,864,894	6,949	

(収入の部)

△…減

費 目	本 年 度	前 年 度	増 減	摘 要
1. 会 費	0	0	0	
2. 終身会費	5,200,000	5,000,000	200,000	入学者240名+20名
3. 雑 収 入	200,000	200,000	0	利息、送料・寄付金等
4. 繰 越 金	3,037,846	2,671,843	366,003	
計	8,437,846	7,871,843	566,003	

(支出の部)

費 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
1. 会 議 費	850,000	270,200	579,800	支部長会・理事会
2. 旅 費	600,000	265,800	334,200	支部長会
3. 印 刷 費	1,300,000	1,044,000	256,000	会報年 2 回
4. 通 信 費	650,000	337,680	312,320	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	200,000	45,000	155,000	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	600,000	570,175	29,825	
8. 消耗品費	500,000	76,713	423,287	封筒、ラベル・コピー代等
9. 支部助成費	600,000	441,400	158,600	
10. 卒業記念費	400,000	374,850	25,150	文鎮
11. 国際交流基金	250,000	250,000	0	
12. 雑 費	200,000	88,730	111,270	
13. 予 備 費	921,843	262,500	659,343	
計	7,871,843	4,827,048	3,044,795	

(支出の部)

費 目	本 年 度	前 年 度	増 減	摘 要
1. 会 議 費	750,000	850,000	△ 100,000	支部長会・理事会
2. 旅 費	600,000	600,000	0	支部長会
3. 印 刷 費	1,500,000	1,300,000	200,000	会報年 2 回
4. 通 信 費	550,000	650,000	△ 100,000	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	150,000	200,000	△ 50,000	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	700,000	600,000	100,000	
8. 消耗品費	350,000	500,000	△ 150,000	封筒、ラベル、コピー代等
9. 支部助成費	650,000	600,000	50,000	
10. 卒業記念費	400,000	400,000	0	文鎮(ペーハーウエイト)
11. 国際交流基金	250,000	250,000	0	
12. 雑 費	750,000	200,000	550,000	
13. 予 備 費	987,846	921,843	66,003	
計	8,437,846	7,871,843	566,003	

平成 22 年度 役 員 表

愛媛大学教育学部同窓会

本	顧 問	壽 卓 三・兵 頭 寛		監 事	後 藤 陽 三		常任幹事	菅 田 顕
	会 長	奥 定 一 孝			替 地 和 人			
部	副 会 長	高 橋 治 郎	峯 本 高 義	村 上 朋 子	友 近 温 壽	垂 水 葉 子		
	理 事	池 内 謙 三	菊 池 祥 裕	森 貞 聰	升 田 守	満 田 泰 三		
		村 上 嘉 一	郷 田 光 生	山 下 雅 司	菊 川 國 夫	石 丸 淳		
		石 尾 憲 弘	鎌 田 サチ子	和 田 和 子	阿 部 晋	押 岡 佳 子		
		菊 池 晶 子	堀 内 寿 夫	正 岡 義 憲	山 本 千鶴子	烏 谷 真由美		
		白 石 久美子	白 石 貴 士	在 間 正 樹	相 原 洋 子	香 川 育 代		

県内支部	支 部 名		支 部 長		副 支 部 長		副 支 部 長	
	四国中央市	川之江・新宮	三 好 伊佐子	金生第一小	田 中 あけみ	上 分 小	森 実 純 夫	金生第一小
		伊予三島	鈴 木 恵 子	豊 岡 小	河 村 岳 則	中 曾 根 小	細 川 真 弓	中 曾 根 小
		土 居	和 田 貴臣男	小富士小	長 瀬 陽 子	北 小	石 丸 満 郎	長 津 小
	新 居 浜		浦 江 賢 治	東 中	濱 田 英 稔	中 萩 小	佐々木 篤 志	大生院中
	西 条		伊 藤 俊	西条東中	蔵 田 満 隆	西条西中	加 藤 美 江	大 町 小
	東予・周桑		磯 明	周 布 小	酒 井 敦 夫	田 野 小	越 智 恵里子	吉 井 小
	今 治		國 政 保 徳	日 吉 小	橋 田 一 美	別 宮 小		
	今治・越智		金 本 圭 介	上 浦 中	真 鍋 毅 迅	玉 川 中	渡 部 守	上 浦 中
	松山・北条		永 野 幸 男	北 条 小	石 丸 康 二	栗 井 小	忽 那 勉	正 岡 小
	松 山		後 藤 陽 三	久 枝 小	白 石 幸 枝	潮 見 小	森 健	中 島 中
	東 温		平 松 恭 助	東 谷 小	本 田 隆 彦	北吉井小	富 長 千恵美	西 谷 小
	伊 予		石 丸 幸 子	北伊予小	渡 辺 正 治	岡 田 中	田 中 勝 子	玉 谷 小
	上 浮 穴		山 田 智香子	柳 谷 小	小 野 敏 信	久 万 中	大 城 博	面 河 小
	大 洲		上 田 敏	大 洲 小	岡 田 廣 温	新 谷 小	垣 見 節 子	喜 多 小
	喜 多		藤 原 雅 彦	石 畳 小	菊 地 啓 二	小 田 小	津 國 巳代子	参 川 小
	八 幡 浜		河 野 和 恵	日 土 小	桐 島 日出夫	長 谷 小	上 田 純 子	松 柏 中
	西 宇 和		辰 野 晴 美	九 町 小	谷 口 利 光	二名津小	小 倉 和 芳	二 見 小
	西 予		佐 藤 光 博	大野ヶ原小	勇 功	大和田小	浅 野 尚 也	二 木 生 小
	宇 和 島		河 野 通 夫	吉 田 中	矢 野 淳 一	二 名 小	清 家 美津子	天 神 小
	北 宇 和		山 口 眞理子	松野東小	永 井 悟	松野南小	古 谷 玲 子	好 藤 小
	南 宇 和		井 上 洋 子	平 城 小	安 岡 宏 次	一本松中	濱 見 陽 計	長 月 小
	附 属		香 川 育 代	附特別支援				

県外支部	東 京	兼 頭 吉 市	山 下 正 洋	森 孝 枝
	京 都	河 野 直 樹		
	大 阪	神 垣 鉄 雄	本 宮 久	杉 山 容 子
	神 戸	木 原 孝 造	平 山 昇	加 登 康 智

編 集 委 員	菅 田 顕	峯 本 高 義	菊 川 國 夫	村 上 朋 子	山 下 雅 司
---------	-------	---------	---------	---------	---------



改装中の記念講堂

この記念講堂は、愛媛大学開学五周年のモニュメントとして建設されたものであり、鉄筋平屋建、延べ床面積四百二十八平方メートルの広さがあります。

建設にあたっては、太平洋戦争中に米国にあつて強制収容などで苦労を重ねた愛媛県出身の渡米一世の方々が、終戦直後の故郷愛媛（日本）が復興するには、教育こそ復興の礎になると、郷土大学の発展を願つて、支援の募金活動を実施し、八十八人からの約

渡米一世 郷土愛の証し 愛媛大学記念講堂が 改装されました

百八十万円の寄付をもとに、本教育学部後援会も賛助し、昭和三十年一月二十二日（土）に竣工されました。

完成後は、数多くの同窓生の皆様はご存じのように、大学のシンボリックな建物として、教育学部の入学式、卒業式などの公式行事に活用されてきました。

以来五十五年間、大学正門北側にあつて、激動する大学の変遷を、そして希望に燃えて入学し、青雲の志を抱いて社会に雄飛していった幾万の学生を見守り続けて参りました。しかし、老朽化が激しいため、近年になつてはもっぱら学生のサークル活動の場として活用されてきました。

そこで、耐震性に危惧した大学側は一時取り壊しも検討しましたが、上記のように由緒ある建物であり、耐震安全性も確保できるとの調査結果が出たことなどから、二〇〇九年十二月に改修を決定しました。

二〇一〇年（平成二十二年）一



月から、屋根や外壁、内装などを改修し、防音設備や固定座席二百五十六席を備えたホールとして、二〇一〇年四月二十四日に、総事業費約二億円をかけ生まれ変わりました。

名称も渡米一世の方々の功績を顕彰し「南加記念ホール」と改称しました。

現在ホールは、ホール北側に完成した校友会館や愛媛大ブランドショップ等と一体化して、地域に開かれた大学として、市民にも開放されています。

同窓生の皆様、どうかお仲間をお誘い合わせ、新装なった記念ホールを訪れてみてください。そして、既に一般公開をされていて、子どもさん達にも大評判の「愛媛



校友会館



ブランドショップ エミカ

大学ミュージアム」へ喫茶ルームあり▽等を見学したり、校友会館へ食堂・喫茶室あり▽やブランドショップ エミカ等を覗くなどして、大学キャンパス内を散策し、思い出話に花を咲かせたり、キャンパスのアカデミックな雰囲気を感じたりしてみたいいかがでしょうか。

新設

愛媛大学校友会館の利用を

この会館は、愛媛大学校友会の活動拠点として使用するとともに、校友会会員、愛大職員、学生及び学外者が交流できる場を提供することを目的としています。

会館を利用することができる者としては、

- ・ 本学の卒業生及び修了生
- ・ 本学を退職した職員
- ・ 本学の職員及び学生
- ・ その他管理者（経営企画部長）が適当と認めた者です。

利用できる室は、

- ・ 交流スペース
- ・ サロン
- ・ ミーティングルーム
- ・ 白楊の間

があります。

開館を利用出来る日時は、

原則として、土、日曜日、国民の祝日に関する法律にきていする休日及び十二月二十八日から翌一月四日までの間を除く日の八時三十分から十七時までになっています。ただし、管理者が必要と認めた場合は、この限りではないとのことです。